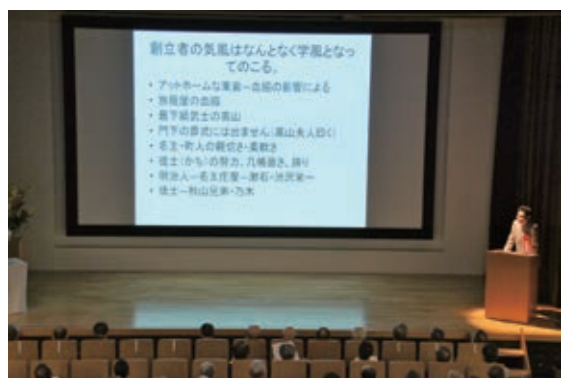




# 東京歯科大学広報

## 水道橋校舎 竣工記念講演・記念式典・祝賀会挙行



平成25年8月31日

2013年7・8・9月

# 262号

### 本号の主な内容

・水道橋校舎 竣工記念講演・記念式典・祝賀会挙行……………	1
・第45回全日本歯科学生総合体育大会総合第3位に輝く……………	16
・訃報 坂田三弥名誉教授ご逝去……………	28
・訃報 金光秀明名誉教授ご逝去……………	28
・平成25年度 Elective Study……………	41
・延世大学校歯科大学との学生交流……………	53

平成25年8月31日（土）に、東京歯科大学水道橋校舎新館（千代田区三崎町）の竣工を記念して、記念講演・記念式典・祝賀会が挙行された。

水道橋校舎新館血脇記念ホールにて記念講演と

記念式典が開催され、続いて、記念祝賀会が東京ドームホテル地下1階「天空」において開かれた。

記念式典・祝賀会には500名を超える方々の参加を得て開催された。

### 《記念講演》

次 第

於 水道橋校舎新館 血脇記念ホール

演題 『幕末より明治の教育について』

講師 磯田 道史 先生

記念講演は記念式典に先立ち、午後2時より水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて開催された。

田崎雅和大学院歯学研究科長を座長として、演者には「武士の家計簿」を記された、作家で静岡文化芸術大学准教授で本学客員准教授でもある磯田道史先生により、「幕末より明治の教育について」と題した講演が行われた。徳川幕府時代に

おける各藩の特徴的な教育方法をとり上げながら、東京歯科大学設立の時代的背景と、高山紀齋先生、そして血脇守之助先生が、どのような志で歯科医学教育を造りあげてきたかについて、知られていない貴重な文献に基づいて、大変興味あるお話をされた。



講演される磯田先生：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



講演会場：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

《記念式典》

次 第

於 水道橋校舎新館 血脇記念ホール

一、開式の辞

一、式 辞 学校法人東京歯科大学 理事長 金子 譲

一、経過報告 東京歯科大学 学長 学校法人東京歯科大学 建設担当常務理事 井出 吉信

一、来賓祝辞 文部科学大臣 下村 博文 様

厚生労働省 医政局長 原 徳壽 様

一般社団法人日本私立大学連盟 副会長 納谷 廣美 様

東京歯科大学同窓会 会長 矢崎 秀昭 様

一、祝電披露

一、閉式の辞

記念式典は、午後3時15分より水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて挙行された。

式典は、司会の一戸達也副学長による開式の辞により始められた。

まず、金子 譲理事長の式辞、井出吉信学長・学校法人東京歯科大学建設担当常務理事による経過報告があり、続いて文部科学大臣 下村博文様、

厚生労働省医政局長 原 徳壽様より厚生労働大臣 田村憲久様の祝辞の披露、一般社団法人日本私立大学連盟副会長 納谷廣美様、東京歯科大学同窓会会長 矢崎秀昭様よりそれぞれ祝辞が述べられた。

そして、司会の一戸副学長より祝電が披露された後、石井拓男副学長の閉式の辞により、式は予定通り終了した。



一戸副学長による開式の辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



金子理事長による式辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



井出学長による経過報告：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



下村文部科学大臣の祝辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



田村厚生労働大臣の祝辞を披露される原 厚生労働省医政局長：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



納谷日本私立大学連盟副会長の祝辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



矢崎同窓会会長の祝辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



石井副学長による閉式の辞：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

### 《施設内覧》

記念式典終了後に、自由参加による新館内の内覧が行われ、式典に参加された多くの方々が真新しい館内を興味深く見学された。



施設見学の様子：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館10階臨床基礎実習室



施設見学の様子：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館8階第2講義室

## 式 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

本日この記念式典にご臨席を賜りましたこと、皆様に先ず以ってお礼を申し上げます。

文部科学大臣 下村博文様、厚生労働省医政局長 原 徳壽様、日本私立大学連盟副会長 納谷廣美様、東京歯科大学同窓会会長 矢崎秀昭様から本式典でご祝辞を頂戴いたしますことは真に光栄であります。

本学は30年前にメインキャンパスを千葉稲毛の広大な新地に移転いたしました。本学創立以来123年の四分の一は稲毛で活動したことになります。稲毛キャンパスからの卒業生は、すでに4,400名を数えております。この数は現存する同窓の約6割に達します。また、現在大学を担っている教員の約8割強は稲毛で育ったのであります。

こうした状況の中で、学校法人東京歯科大学 理事会は平成20年3月に井上 裕理事長のもと稲毛のメインキャンパスを水道橋に移転させることを決定いたしました。わが国将来の人口構成、大学機能の高度化、校舎等の維持管理費等の適正化を勘案し、私立大学として建学の精神をバックボーンに、有為にして多様な人材を育成するための方策として、都心回帰を決断したのであります。理事会は、その後建設担当常務理事に井出吉信理事を指名いたしました。

移転決定直後に井上 裕理事長は急逝され、私たちは大黒柱を失い茫然といたしました。時を置かず米国発の経済不況が世界を襲い、そしてまた2年前には東日本大震災・それに伴う原発事故が発生し社会情勢は不透明で困難な時期でありました。しかし熱田俊之助前理事長の計画執行の舵取りのもと、われわれは井上 裕先生の最後のお仕事となった移転を無事完了させる事が本学のためであるという確信によって、本日この晴れの記念式典を迎えた次第であります。

本学は、高山紀齋先生が1890年明治23年創立した高山歯科医学院を前身としております。この時期の学校制度では、私立学校はすべて各種学校でありました。高山先生は米国で修得した近代歯科医学を、高度な教育内容で日本に移植したいという意図で、銀座開業で成功された財力をもとに歯科医学院を芝伊皿子の地に設立いたしました。

このときすでに2校の歯科医学校が運営されていましたが、そのいずれもが短期間で廃校になるような歯科医学校運営には厳しい時代でありました。しかし、高山先生は、系統的歯科医学の教科書を連続して発刊し、同校学生を歯科醫術開業試験に合格させ、また日本の歯科の状況を欧米に積極的に発信し交流するなどして近代米国歯科醫術の普及活動を継続していきました。

1900年明治33年高山先生は、歯科医学院創立の10年後、50歳になったときに歯科医学院を学院の教員をしていた血脇守之助先生に委譲いたしました。血脇先生が30歳のときであります。

明治36年1903年に私立学校として初めての高等教育制度が始まります。それは「専門学校令」によるのであります。今日の伝統校であります慶応・早稲田・明治・日大もこのとき専門学校になったのであります。この専門学校令には人・物・金で高いハードルがありましたが、血脇先生は明治40年1907年に専門学校の認可を受け、学生は徴兵猶予の権利を得たのであります。また、明治39年制定の歯科医師法にともなって発布された「公立私立歯科医学校指定規則」による文部大臣指定校を1910年明治43年に取得し、学生は国家試験免除の権利を得ております。

こうしたことは、明治時代の富国強兵、官尊民卑の政策にあつて、弱小集団の歯科界にとってまさに未開の地を切り開くのに相当しておりましたが、血脇先生は歯科医学・歯科医療を行政的にもまた国民に認知してもらうためにも生涯をかけた努力を傾注いたしました。

私立の専門学校が、大学に昇格できたのは1918年大正8年であります。大正7年12月に大学令が発令されたことによります。しかし、ここですでに7校が存在していました歯科医学専門学校にとっては大

きなショックが起ります。大学昇格の対象となる学部には歯科医学が入っていませんでした。当時官立大学には歯学部が存在していませんし、私立大学では歯学部あるいは歯科大学を国は認可しないということでもありますから、歯科医学には研究は必要なく、歯科医学専門学校では教育だけをしてあげばよろしいということになります。歯科医学は科学の一部門であると確信している血脇先生にとって、研究の無い科学の進展はあり得ず、また研究機能と学位授与権を有する大学昇格は、血脇のみならず専門学校にとって最終的な目標でありました。

血脇守之助・奥村鶴吉・花澤 鼎らは、しかし諦めることなく大学昇格の準備を進めて行ったのであります。それは、研究奨励であり、研究環境の整備をして研究者育成に積極的に乗り出します。その成果は大正12年の関東大震災直前に花澤 鼎先生が慶応大学医学部で、次の年に奥村鶴吉先生が慈恵会医科大学で医学博士を授与されます。これは歯科医師として医学博士号を受領したわが国の第1号・2号でありました。

昭和に入り金融恐慌、戦時体制の強化、そして太平洋戦争勃発となり教育制度の進展などは考えられないほどわが国は逼迫して行ったのであります。

昭和20年1945年夏、太平洋戦争は敗戦によって終結いたしました。そして願っていた歯科医学専門学校の大学昇格は、占領軍の統治によって皮肉にも実現したのであります。1946年昭和21年わが国で最初の歯科大学がこの水道橋に誕生いたしました。血脇守之助先生はその記念式典に出席し、歯科医学の将来を見届け、その3ヵ月後に鬼籍に入ってしまったのであります。享年77でありました。

このような歴史をみると、かつての屈辱的な状況は現在存在いたしません。国は競争の土俵をどの研究領域にも平等に広く開いており、この土俵に乗れないのであれば、それはわれわれ自身の怠惰の故であります。折角の好機を逃している屈辱的な後輩を高山・血脇両先生をはじめ、現在の繁栄を築いて来た先人達が許すとは思えません。

本学には血脇イズムが脈々と流れていますが、血脇イズムの本質は、「自己の責任と義務とった事柄には、損得利害の打算に気を配る余裕も無いほどに一心不乱に最善の努力を傾注する事である。」と血脇先生ご自身が述べております。

明治時代、高山紀齋先生と血脇守之助先生は、香具師や素浪人による歯抜きのイメージを脱却させ、歯科とは科学あるいは医学の一部門であるということ国民の皆さんに認識してもらうために戦ってきております。現在本学の教育指針となっている「歯科医師である前に人間であれ」という言葉は、香具師を対極にして英国のジェントルマンの気質と素養を歯科医師になる人々に求めた理念であります。

高山紀齋先生は、日本の近代化に貢献し、血脇守之助先生は歯科の発展と歯科の社会的意義を定着させた歴史的な人物であります。こうした先達を持つわれわれは、彼らの精神をバックボーンに歴史的なこの水道橋の地で新しい東京歯科大学の一ページをさらに重ねて行きたいと思っております。教育・研究・診療そして社会貢献という大学の使命を先導性をもって遂行していく所存であります。

「競争と連携」そして「グローバル」が大学の質を向上させる為の現代のキーワードであります。学校法人東京歯科大学として臨床医あるいは研究者となる有為な人材を将来にわたって育成することに努力して行きたいと思っております。

## 経過報告

東京歯科大学 学長  
学校法人東京歯科大学 建設担当常務理事  
井出 吉信

東京歯科大学水道橋、移転事業について経過報告申し上げます。

昭和56年9月、本学は水道橋から新たに千葉市に校舎を開校しました。

それから32年を経た今、本年9月をもちまして、水道橋にメインキャンパスを移転し、次なるステージへの新たなスタートを切ることになりました。

この度の移転計画は、水道橋・千葉・市川の三キャンパスが一体となり、最先端の研究・医療と、将来の歯科医療を担う人材育成を基本理念として進めて参りました。

今回の事業は、平成18年11月に、理事会の承認を受け、設置された「教育施設に関する将来検討委員会」の中で、本学創立120周年記念事業として、千葉校舎および、水道橋校舎についての将来構想を各界の意見を聞きながら、様々な角度から検討されました。

平成20年3月、本学元理事長ならびに元参議院議長であられた井上 裕先生のご決断により、移転計画が法人理事会および評議員会に提出され、全会一致で水道橋への移転が決議されました。この決定に基づき、詳細な移転プランが練られていきました。この間、リーマンショック等の経済状態の激変や、東日本大震災の影響を受けながらも、前熱田理事長、現金子理事長のご努力により、移転計画を着実に進める事が出来ました。

平成24年3月には、神田川を眼下に臨む高台に、1、2年生が学ぶ「さいかち坂校舎」が完成しました。同時に、水道橋病院の改修が行われ、1階に病院受付が開設され、2階から4階までが最新の設備を誇る診療室に刷新されました。また基礎系・臨床系の講座・研究室、口腔科学研究センターが新設され、東京歯科大学本館として生まれ変わりました。さらに本日、新館の落成を迎えることとなりました。この新館は、血脇記念ホール、及び3年生から6年生の講義室、実習室、研究室となっております。

水道橋は、本学の前身である東京歯科医学院が、明治34年に神田小川町から移転した地で、古くからの文教地域として文化施設が集まり、多くの先端情報に触れる事の出来る、利便性に富んだ場所です。このロケーションを最大限に活用し、これまでに培ってきた確かな実績と、他大学の研究機関や医療機関との連携・協力体制の推進により、国民から信頼される歯科医学教育機関としての社会的使命を果たしていく決意しております。

最後になりますが、今回の移転事業に際し、長期にわたりご努力頂きました、東京歯科大学のすべての教職員、父兄会、同窓会の皆様方、さらに、御協力賜りました地元の方々、校舎建設に直接当たられた、日本設計、清水建設様に心より感謝申し上げます。以上をもちまして、経過報告といたします。

## 祝 辞

文部科学大臣 下村 博文

本日ここに、東京歯科大学水道橋校舎竣工記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴大学は、我が国最初の歯科医学教育機関である「高山歯科医学院」を前身とし、建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」の教えの下、全人的教育等を目指し、豊かな教養、高い人格を備えた人材を育成され、これまで、約一万五千名の卒業生を社会に輩出され、国内外の歯科医学・歯科医療の分野で中核として活躍してこられました。

これまで貴大学の充実・発展に御尽力された、歴代の理事長、学長、教職員各位のたゆみない御努力と関係各位の熱意あふれる御協力の上に、このたび新たに念願の水道橋校舎が竣工を迎えられますことを大変喜ばしく感じております。

我が国は現在、急速に進展する高齢化等に伴う様々な医療課題の解決が求められています。とりわけ、我が国が目指す健康長寿社会を実現させるに当たって、生涯を通じて正常な口腔機能を維持することは、必要不可欠な要素です。そのためには、優れた歯科医師の養成や高度な歯科医療の提供、日本発の革新的な歯科医療機器・医療技術の開発・実用化など、大学歯学部に対する国民の期待は大変大きいものと認識しております。

このような中、貴大学において水道橋校舎の竣工を迎えられ、大学の個性や特色を一層発揮できるような施設環境の充実を図られましたことは、誠に心強い限りであり、本施設の活用により、大学の使命や社会から期待される役割を十二分に果たされますことを期待しております。

キャンパスは大学の顔であり、個性と魅力あふれるキャンパス環境は優れた研究者や学生を惹きつけます。このたびの水道橋校舎の竣工を契機として、貴大学が、ますますの御発展を遂げられますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

厚生労働大臣 田村 憲久

東京歯科大学水道橋校舎竣工の記念式典にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

東京歯科大学は、前身である高山歯科学院が明治二十三年に設立されて以来、高度歯科医学の知識と臨床技術を併せ持つ歯科医師の育成を目標に掲げ、現在にいたるまで数多くの歯科医師を育成し、歯科保健医療の発展に取り組まれてきました。

また、平成十八年度から必修化された歯科医師臨床研修制度の実施機関として、日本の歯科医師の資質向上に御尽力いただいております。

関係者の皆様には、日ごろのたゆまぬ御努力によって、国民の健康と福祉の増進に大きく貢献していただいていることに心から感謝いたします。

さて、日本国民の歯の健康状態は、乳幼児や学齢期等のむし歯の減少、八十歳になっても二十本以上の歯を保つ「8020（ハチマル・ニイマル）運動」の達成者の増加など、着実に向上しております。

また、平成二十三年八月に公布・施行された「歯科口腔保健の推進に関する法律」に基づき、今後、口腔の健康保持を推進するための施策を総合的に進めていくこととなります。

関係者の皆様におかれましては、このような施策にご協力いただくとともに歯科保健医療の向上を通じた国民の健康・福祉の増進に向けて、より一層、御尽力いただくようお願いいたします。

最後になりますが、東京歯科大学のますますの御発展と、関係者の皆様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

一般社団法人日本私立大学連盟 副会長  
学校法人明治大学 学事顧問 納谷 廣美

東京歯科大学が計画どおり水道橋校舎新館を竣工し、そのための記念式典を本日ここに挙行されますことを、一般社団法人日本私立大学連盟を代表して、心からお祝いとお慶びを申し上げます。

貴法人は、2008年(平成20年)に「メインキャンパスを千葉から水道橋に戻す」ことを決定し、まず水道橋キャンパスに「さいかち坂校舎」を新築して、2012年度(平成24年度)より新入生を迎えました。

そして、このたび水道橋校舎新館を竣工させたことにより、水道橋校舎本館(水道橋病院)と相まって、この9月より本格的に大学機能を、貴大学にとっては「ゆかりの地・水道橋」へ移転することができ、今まで以上に充実した教育研究環境が整うことになりました。「都心回帰」の潮流の中で、本当におめでとうございます。

ところで、貴大学は、創立120周年のメインテーマとして「継承と発展」を掲げ、その記念式典を2010年(平成22年)5月22日に挙行されておりますが、その時も、私は私大連の代表として祝辞を述べさせていただきました。

貴大学は、日本で最初の歯科医学教育機関「高山歯科医学院」として1890年に創立され、その後は血脇守之助先生の「歯科医師たる前に人間たれ」という教えを忠実に遵守し、発展を遂げられ、今日の名声を得ておられます。この間、貴大学は私大連のチャーターメンバーとしてご参加され、わが国の私学振興並びに私大連の充実発展のために多大なご尽力をいただいております。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

また、その創立120周年式典の後、私は現理事長(当時、学長)の金子 譲先生と現学長(当時、副学長)の井出吉信先生の強いお誘いをうけ、僭越ではありましたが、同年8月7日開催の貴大学教育セミナーにおいて「私立大学の進むべき道」のテーマのもと講演をさせていただいたことがあります。

講演会やその後の懇親会は、出席されていた皆様の熱い思いで満ち溢れていました。その情景は、今でも鮮明に思い出されます。

今日の水道橋校舎新館竣工が、貴大学の更なる躍進の契機となり、貴大学が今後とも「歯科医学・歯科医療のフロンティア」として、より一層隆昌されますことを心よりお祈り申し上げ、私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

## 祝 辞

東京歯科大学同窓会

会長 矢崎 秀昭

本日は東京歯科大学の縁のこの地に、新校舎が竣工したことに同窓会を代表し心からお祝い申し上げますとともに、ご来駕賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。さらにこの大事業を推進されておられる関係者の方々のご苦勞に心からの敬意を表します。

本学の百二十年以上にわたる歴史を見ますと創立者の高山紀齋先生、その後を継承した、血脇守之助先生には、四十年以上にわたり本学の発展だけでなく、日本の歯科医師の社会的な地位の確立や、国民の歯科医療の充実のために、血のにじむような努力をこの水道橋の地で行っておられます。

血脇守之助先生が東京歯科医学院を引き継いだときには、学生数も少なく、教室を間借りするなどの時もありましたが、「歯科医師は、頭で働き、学識を深めることにより、人々を幸せにすることが出来、さらに、人の尊敬を有られる職業で有る」との強い信念により、多くの人々の共感をえて、世界に冠たる歯科医学校となるよう邁進されました。

今後、本校の同窓はこの水道橋にて学んだ世代、そして千葉校舎の卒業生、さらに、この伝統の地において新たに育つ方々と、三世代の同窓が共に本学の発展を支えて行くこととなります。

関東大震災のあと、歯科医学の殿堂となるよう、血脇先生が執念を燃やして取り組まれました、旧水道橋校舎の建設の際は、全国のほとんどの同窓がこぞって母校の建設に協力しております。

この度の新校舎の建設に対しても、歯科界が大変厳しい状況の中、本当に多くの同窓から、血脇記念ホールの建設への支援を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

血脇先生はじめ多くの先輩たちの偉大なる努力の結果、日本だけでなく、本学は世界でも有数な歯科大学となりました。

しかしながら現在、全国には多くの歯科大学が存在し、日本の少子高齢化などの社会状況もあり、あらゆる面において歯科大学間の競争は一層厳しくなっております。

この様な状況におきましても、この伝統に育まれた東京歯科大学が、歯科大学の雄として輝き続けるよう、大学の教職員の皆様の今後のご活躍を多いに期待致しております。そして同窓の皆さまには、この新校舎に続き、更に水道橋における、研究施設などの充実が必要となっている事から、今後とも大学への絶大なる支援を宜しくお願い申し上げます。

これこそ、東歯の教職員、同窓は生涯にわたって、共に助け合い、高めあってゆく、血脇イズムの本質であります。

日本の歯科界と母校・東京歯科大学の益々の発展を祈念し挨拶と致します。

誠に有難うございました。

《記念祝賀会》

次 第

於 東京ドームホテル 地下1階『天空』

一、開会の辞

一、挨拶	学校法人東京歯科大学 理事長	金子 讓
	東京歯科大学 学長	井出 吉信
一、来賓祝辞	一般社団法人日本私立歯科大学協会 会長	川添 堯彬 様
	社団法人東京都歯科医師会 会長	高橋 哲夫 様

一、来賓紹介

一、乾 杯	東京歯科大学父兄会 会長	寺本 信三 様
-------	--------------	---------

一、校歌斉唱

一、閉会の辞

記念祝賀会は、午後5時より会場を東京ドームホテル地下1階『天空』に移し、盛大かつ賑やかに開催された。

祝賀会は、司会の井上 孝千葉病院長による開会の辞により始められ、続いて金子 讓理事長、井出吉信学長より挨拶があり、次に一般社団法人日本私立歯科大学協会会長 川添堯彬様、社団法人東京都歯科医師会会長 高橋哲夫様よりそれぞれ祝辞が述べられた。そして、出席された来賓の

方々の紹介が行われた後、東京歯科大学父兄会会長 寺本信三様による乾杯のご発声をいただき祝宴が始められた。

祝賀会は和やかに進み、本学Big Band Jazz部による生演奏も会場の雰囲気盛り上げていた。

祝賀会も終わりに近づき、全員による校歌斉唱の後、矢島安朝水道橋病院長による閉会の辞により、祝賀会は予定の午後7時に盛会のうちに終了した。



井上千葉病院長による開会の辞：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



挨拶する金子理事長：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



挨拶する井出学長：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



川添日本私立歯科大学協会会長の祝辞：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



高橋東京都歯科医師会会長の祝辞：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



寺本父兄会会長による乾杯のご発声：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



和やかな祝賀会会場：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



Big Band Jazz部による生演奏：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



矢島水道橋病院長による閉会の辞：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』



祝賀会を終えての記念写真：平成25年8月31日（土）、東京ドームホテル 地下1階『天空』

## 祝 辞

一般社団法人日本私立歯科大学協会

会長 川添 堯彬

東京歯科大学水道橋校舎竣工記念の祝賀会が開催されるにあたりまして、一般社団法人日本私立歯科大学協会を代表し、一言、ご挨拶を申し述べさせていただきます。

我が国の歯科医学教育は、明治以来、私立学校から始まり、現在も歯科医師の約75%が私立歯科大学・歯学部出身者であるなど、私立歯科大学・歯学部は歯科界に多大な貢献を果たしてきたところでありますが、近年におけます国民の歯科の疾患構造の変化、また超高齢社会に突入した我が国において、今後、益々、歯科医師の役割、重要性は増していくことは疑いのないところであります。

このような中で貴学は明治23年に我が国で最も早い歯科医学教育機関として、高山歯科医学院を創立されて以来、進取の気性、開拓精神という先導性ととともに、高山紀齋先生並びに血脇守之助先生が掲げられた、「歯科医師たる前に人間たれ」という、世代を超えた哲学を建学の精神とされ、我が国、歯科医学の進歩及び歯科医療の発展のため中心的な役割を果たしてこられました。貴学の今日の栄光は、先覚者の方々はじめ、歴代の役員、教職員の皆様のご努力のまさに賜であると存じます。とりわけ金子理事長先生、並びに井出学長先生におかれましては、昨今の歯科界を取り巻く極めて難しいこの時期に先頭に立たれて苦心をされておられることと存じます。心から敬意を表する次第でございます。

さて、貴学は平成22年に創立120周年を迎えられました。これを機に、我が国の口腔医療の発展と、優秀な医療人育成を目指され、この水道橋の地にメインキャンパスを移されることを計画され、明日の9月1日をもって、新たにスタートされる運びとのことでございます。誠に慶賀に堪えない次第でございます。先程、素晴らしい校舎を拝見させて頂きました。同じ大学人として、誠に羨ましく思う次第でございます。

終わりに、東京歯科大学の発展にご尽力をされた同窓会はじめ、関係の方々に敬意を表するとともに、貴学の益々のご隆盛を祈念申し上げまして、祝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

## 祝 辞

社団法人東京都歯科医師会  
会長 高橋 哲夫

本日は東京歯科大学の水道橋校舎竣工記念講演会・記念式典にご招待頂き誠にありがとうございます。

私ども東京都歯科医師会のご存じのように東京都在京5歯科大学の先生方にご協力を得て会務執行をつつがなく過ごしておりますが、東京歯科大学水道橋病院にも今まで何かと連絡を取りながらご協力をお願いしてきました。今回、東京に東京歯科大学本体が戻ってくるということで我々も大変期待してございます。すごく援軍になるということで重ねて宜しくお願い申し上げたいと存じます。また先ほど式典にもございましたように、千葉から東京に移るにあたって井上元理事長先生の決断によって形が決まってまいりましたけれども、幾多の課題がある中で前熱田理事長、現金子理事長、井出学長が果敢とそれを実行し、そしてこの竣工式を迎え、未来に向かって一歩進めたということに対して、病院含め関係各位のご努力に心から敬意を表したいと存じます。

さて、東京都歯科医師会は先ほど申し上げました通り、在京5歯科大学の協力のもと、卒後研修始め公衆衛生事業或いは行政との連携等、各種委員会の中で大学関係者の方々に入って頂き、いろいろなアドバイスを頂きながら執行してございます。是非、東京歯科大学からも先人的な先生方をお送り頂き、議論の先頭に立ってバックアップして頂ければと期待してございます。しかし、東京都歯科医師会としてもご存じのようになかなか難しい課題を幾つか抱えております。組織率も少しずつ低下してきているという問題もございます。本会の平均年齢が60歳という状況もございますし、最近入ってくる新しい先生方の年齢を見ましても、45・50歳近い先生方が入会されるという状況でございます。

過日、水道橋病院の矢島病院長と話す機会がありまして聞いたのですが、在学6年生と話していて、将来大学出た後どうするかと聞くと、15、6年前だと「僕は歯周病を学びアメリカに行って研究し、戻ってきてこういう成果を上げたい」とか、「いろんな技術を身につけてこうしたい」といういろいろな夢が幾つか聞こえたという話も伺いました。しかし、最近聞くと「開業して食べていければいいかなあ」という声もちらほら聞こえるということもあるようでございます。しかしこの歯科界の難しい中で臨産学を含めてこの負の連鎖を少しでも突破していかなければいけないという意味で、私共ももちろん努力致します。先生方と是非手をとって少しでもそういった状況を開いていきたいという思いでございます。その中で最も私は大事だと思いますのは一貫してこれほどの社会でも同じだと思いますが、やはり「教育」というものが最も大切だろうと思っています。医療人を作るための大学。先ほどからお話ありましたように、高山、血脇イズムの中で医療人をしっかりと育てて頂いて、日本の国民の医療を自分達がこれから守るという意識のもとで教育して頂き、立派な人材を排出して頂ければこれからまたいろんな意味で我々業界全体が盛り上がってくるだろうと私も信じ、努力したいと思っておりますので重ねて宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、東京歯科大学が益々発展されますと同時に、本日ご出席の皆様方のご健康とご多幸をご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。本日はお招きいただき誠にありがとうございました。

# 第45回全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体） 総合第3位に輝く

第45回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門は、日本大学歯学部が事務主管となり、8月1日（木）から8月12日（月）までの日程で、例年を上回る記録的な猛暑のなか関東地方を中心に各地で熱戦が繰り広げられた。

本学からは、20部門300名以上の部員が大会に

参加し、バレーボール部門・硬式野球部門が優勝の栄冠を勝ち取り、硬式庭球部門・水泳部門が準優勝、サッカー部門・弓道部門が3位の成績を収めた。獲得したポイントは、132点で、昨年より一つ順位を上げ見事総合第3位となった。

## ■第45回歯学体 入賞

### 入賞

部門	順位
バレーボール部	総合優勝、男子団体優勝、女子団体準優勝
硬式野球部	総合優勝
硬式庭球部	総合準優勝、男子団体優勝、女子団体5位
水泳部	総合準優勝、男子団体優勝、女子団体準優勝
サッカー部	総合第3位
弓道部	総合第3位、女子団体優勝、男子団体第9位
バスケットボール部	総合第5位、男子団体準優勝
スキー部	総合第5位
剣道部	総合第5位、女子団体準優勝、男子団体第5位
ゴルフ部	総合第7位、女子団体4位、男子団体5位
陸上競技部	総合第6位

## ■個人成績

### 優勝者

部門	種目名	学生氏名（学年）
スキー部門	男子回転競技	木村 翔馬（118期）
〃	男子大回転競技	木村 翔馬（118期）
水泳部門	男子400mメドレーリレー	加藤 禎彬（4年）、西村 達郎（4年）、齋藤 伸（3年）、山本 圭（1年）
〃	800m自由形	加藤 禎彬（4年）
〃	200m平泳ぎ	齋藤 伸（3年）
陸上競技部門	1500m	谷口修一朗（4年）
〃	800m	谷口修一朗（4年）



## 準優勝者

部 門	種目名	学生氏名 (学年)
水泳部門	男子 200m フリーリレー	加藤 禎彬 (4年)、西村 達郎 (4年)、齋藤 伸 (3年)、山本 圭 (1年)
〃	男子 800m フリーリレー	加藤 禎彬 (4年)、西村 達郎 (4年)、齋藤 伸 (3年)、山本 圭 (1年)
〃	200m 自由形	加藤 禎彬 (4年)
〃	200m 個人メドレー	西村 達郎 (4年)
〃	200m 背泳ぎ	佐藤 令 (3年)
〃	女子 400m フリーリレー	野末 雅子 (6年)、喜田 千尋 (4年)、藤森香菜子 (4年)、吉野 早紀 (1年)
〃	女子 200m メドレーリレー	野末 雅子 (6年)、喜田 千尋 (4年)、藤森香菜子 (4年)、吉野 早紀 (1年)
〃	女子 200m フリーリレー	野末 雅子 (6年)、喜田 千尋 (4年)、藤森香菜子 (4年)、吉野 早紀 (1年)
〃	50m 背泳ぎ	喜田 千尋 (4年)
〃	100m 自由形	吉野 早紀 (1年)
〃	100m 背泳ぎ	吉野 早紀 (1年)
陸上競技部門	5000m	谷口修一朗 (4年)
〃	4 × 100mR	永井 里歩 (4年)、鷺巣友衣子 (3年)、熊本亜津沙 (2年)、九鬼 ゆり (1年)
〃	走高跳	熊本亜津沙 (2年)

## 特別賞

部 門	種目名	学生氏名 (学年)
硬式野球部門	MVP	手束 俊介 (4年)
〃	ベスト9 投手	荻原 光博 (4年)
〃	ベスト9 右翼手	大津 雄人 (6年)
〃	ベスト9 遊撃手	内倉慶一朗 (6年)

## ■バレーボール総合優勝

バレーボール部主将 田中亜生(6年)

今年、バレーボール部は男子部優勝、女子部準優勝、総合優勝という結果でした。男子は昨年、苦い経験をし、その悔しさを胸に練習してきました。デンタルの会場へ行くまでの間、たくさんの不安がありました。その不安の中でも、チーム一丸となり、文字通りの全員バレーの結果、優勝することができました。去年結果が残せなかった分、優勝の瞬間の喜びは何にもかえがたいものでした。女子は昨年とほぼメンバーが変わらず、優勝を目指し練習してきました。初戦では緊張からいつもの調子が出ず、負けてしまいましたが、次の日から切り替え、いつもの自分達らしいバレーをして、決勝トーナメントに進むことができました。予選で負けた相手にリベンジして勝ち、優勝まであとひとつというところで、フルセットまで持ち込み試合をしましたが、悔しくも負けてしまいました。しかし男女でとてもいい結果を残せたこと、結果もちろんですが「最後まで全員でバレーボールを楽しもう！」という目標が叶えられたことが一番の幸せでした。これも、普段か



抜群のチームワークで頂点へ：平成25年8月9日(金)、東京体育館



血と汗と涙の結晶、大活躍の準優勝：平成25年8月9日(金)、東京体育館

ら支えてくださっている、OB、OGの先輩・先生の方々、特に坂先生・新谷先生のおかげだと思います。本当にありがとうございました。来年僕たち6年生は抜けますが、伝統あるバレーボール部の意志を後輩たちしっかりと受け継ぎ、いい結果を残せると思いますので、これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

## ■デンタルを終えて

硬式野球部主将 手束俊介(4年)

我々野球部は今年のデンタルで優勝することが出来ました。昨年度は決勝で負けてしまい、準優勝という非常に悔しい結果だっただけに今年こそはという気持ちが強かったのは自分だけではなかったと思います。

1回戦は去年の決勝の相手福岡歯科大学。絶対に昨年の借りを返すという全員の強い気持ちが相手を飲み込んだのか、14対4(5回コールド)という大差での勝利で借りを返すことが出来ました。2回戦の日本大学松戸歯学部は10対2(7回コールド)、準決勝の日本大学歯学部は17対0(5回コールド)という非常に良い状態で決勝に進むことが出来ました。決勝戦は九州歯科大学。2回に2点を先制される苦しい展開でしたが3回に4点を奪い逆転に成功。しかし、直後の4回に2点を取られ同点とされると、5・6回に1点ずつ加えられ4対6と逆転されてしまいました。直後の6回裏、満塁ホームランを含む一挙5点を奪い9対6と逆転。しかし、9回裏に九州歯科の粘りにあい9対9の同点に追いつかれ、延長に突入。10回表に1点を奪われ絶体絶命かと思われましたが、その裏に見事2点を奪いサヨナラ勝ちで優勝を決めることができました。



劇的な延長サヨナラで悲願の優勝：平成25年8月9日(金)、昭和島市民球場

支えてくれた方々のためにも優勝という最高の結果で恩返しできたことが何よりうれしかったです。

### ■男子優勝・女子準優勝

水泳部主将 西村達郎(4年)

毎年皆様に暑い夏をお届けしている水泳部です。オールデンタルでは、男子の圧倒的な力で優勝し、男女総合優勝を一昨年、昨年と果たしました。今年は、3連覇を目指し厳しい練習を日々重ねてきました。

福岡で行われた大会は、初日から男女ともに自己ベストを更新し、ポイントを重ねました。2日目は大会記録を2つも叩き出すなど目覚ましい活躍をしました。

結果は、男子優勝、女子準優勝で総合優勝をあと一步のところまで逃してしまいました。涙を流すほど悔しい気持ちを味わいましたが、全員が自己ベストを出し、総合優勝という肩書よりも価値のある結果を残すことが出来ました。水泳部にしか味わうことのできない、僕らにしか味わうことのできない、最高に暑い2013年の夏を経験することが出来ました。僕たちに夏は終わりません。



名門復活までもう一步、笑顔の水泳部：平成25年8月4日(日)、福岡県立総合プール

### ■硬式庭球部デンタル4連覇

硬式庭球部主将 濱田祥一(4年)

先日、8月2日～6日において千葉県白子町でデンタルが行われました。猛暑、炎天下の中で私達は開会式から既に緊張していた事を思い出します。というのも、私達男子は3連覇しており今年は4連覇できるかどうかというプレッシャーが最も大きかったです。実際、リーグ戦ではあまり良い成績は残せておらず、去年までの主戦力が抜けてしまった事もあり今までで1番厳しいデンタ

ルになると思っていました。

いざ試合に臨むと、楽な試合は1つとなく常に厳しい試合ばかりでしたが、それを乗り越えて見事優勝できました。この瞬間は今までの4回の優勝の中でも最高に嬉しくそしてシンプルに感動した事を覚えています。

4連覇は今までのこの部活の歴史の中でも大きいもので、それらに全て関わり貢献出来た事を誇らしく思います。これからも私の、そして東京歯科大学の誇れる硬式庭球部であって欲しいと切に願います。



エアー・ケイ並のエース。男子4連覇を達成：平成25年8月6日(火)、千葉県白子町テニスコート

### ■デンタルを終えて

サッカー部主将 山田大貴(4年)

サッカー部は、毎年デンタルでの優勝を目指して日々練習しています。今年は6年生まで残ってもらい約20名の部員でデンタルに挑むことができました。しかし、結果は3位。私自身が入部してから一番良い順位でしたが、ずっと部活を続けてきた6年生と一緒にサッカーをできる最後の年ということもあり、必ず優勝したいという気持ちが強かったので今回の結果には満足できていませんでした。

しかし例年4位という順位が続いている中、今年は3位決定戦を勝つことにより「6年生のサッカー部としての最後の試合」を勝って終わることができました。優勝すること出来ませんでした。最後の試合を勝てたということで、皆の「勝ちたい」という気持ちが1つになったと感ずることができ、結果など関係なく今年の大会を気持ちよく終えることができました。

いつも一緒にいて仲の良いサッカー部ですが6年生が引退してしまい本当に寂しく思います。

校舎が水道橋に移転し、練習場所・練習日数・部員など環境が大きく変わりますが、6年生が残してくれたこの最高のチームが、より一層良いチームになるよう今後も文武両道を志し、練習に励みたいと思います。



連日の猛暑の中、大健闘の3位：平成25年8月7日(水)、江東区夢の島陸上競技場

## ■2013年オールデンタルをふりかえって

弓道部主将 川井 毅(4年)

今年のオールデンタルは部門主管である東京医科歯科大学のもと8月4日から8日の期間での埼玉県上尾の埼玉県立武道館にて行われた。今年の夏休みは水道橋への移転の関係で一週間ほど遅く始まったのでデンタルに向けての準備期間も例年より一週間短いという厳しい日程であった。夏休み開始すぐに合宿へ向かい、期間が短いのでとにかく集中して効率よく練習を行うこととデンタルで必ず優勝することを目標に練習に励んだ。稲毛の道場に戻ってからはより一層その思いを強くもって部員たちと練習を行った。そして、このとき僕たちが頑張ることが出来たのは師範の先生やOBの先生方の熱心な指導のおかげであった。

そして、デンタルを迎え、最初の3日間がメインの総当たり団体戦で最終日は個人戦という日程であった。炎天下かつ3日続けての団体戦の試合というので選手たちの体力、気力は奪われていったがOBの先生方や部員たちの熱い応援を背に次々と試合に勝っていくことができた。圧倒的な強さで女子団体は優勝を果たし男子も9位と健闘し総合順位で21校中3位という快挙を成し遂げることができた。

このような素晴らしい成績を取めることができたのも練習に一生懸命努力してきた部員たち、忙しい中練習を見てくださったOBの先生方、そし

て毎回優しく指導して下さる師範の先生がいてこそなりたったものだと強く思い、この場で感謝を述べたいと思う。



熱い気持ちを胸に秘め、全神経を一点に集中：平成25年8月8日(木)、埼玉県立武道館

## ■評議委員を終えて

石 彩記子(4年)

評議委員として二年目、第45回全日本歯科学学生総合体育大会に副実行委員長として運営に参加できたことを大変嬉しく思います。

最初は、右も左も分からなかった私に仕事を優しく教えてくれた先輩、「視察に行こうよ。」と誘ってくれた他大学の友達、そして何よりも、日程や宿の手配など多くの面で支えて下さった学生課の方々や、先生方、多くの人たちが見守って下さったお陰で、無事に終えることができました。

定例会議では、報告や意見などの発言の場をたくさん持たせもらい、色々な人と知り合うこともできたので、将来自分が社会に出たときの糧になると思います。

他大学の多くの方が東京歯科大学の授業や新校舎、国家試験の合格率の良さなどに興味を持っていて、自分がここに通えていることを今まで以上に誇りに思いました。

また、1・2年生の校舎と3・4年生の校舎が離れていて、練習など大変だったと思いますが、昨年は総合第5位、さらに今年は総合第3位という結果を残したことは素晴らしいことだと思います。

9月から東京に移り、千葉のグラウンドや体育館のような恵まれた環境から離れてしまった分、不自由になることも多いと思いますが、全学年の校舎が近くなり、コミュニケーションもより一層増え、絆も深まると思うので、来年はさらなる飛躍に期待したいです。

■来年は、新潟を舞台に開催

平成26年度の第46回大会は、日本歯科大学新

潟生命歯学部事務主管により、新潟を中心に開催される予定である。

■歯学体スナップ



決勝で大接戦、輝く準優勝：平成25年8月5日（月）、千葉ポートアリーナ



綺麗なフォームでストライク：平成25年8月6日（火）、品川プリンスホテルボーリングセンター



陸上競技部：平成25年8月3日（土）、大井ふ頭中央中央海浜公園陸上競技場



剣道部：平成25年8月4日（日）、墨田区総合体育館



バドミントン部：平成25年8月9日（金）、彩の国くまがやドーム体育館



空手部：平成25年8月11日（日）神奈川県立神奈川大学体育館



ゴルフ部：平成25年8月8日（木）、茨城ゴルフ倶楽部



ヨット部：平成25年8月4日（日）、海陽ヨットハーバー

# 水道橋キャンパスニュース

(水道橋校舎新館 (新築) 2013年9月開校)

## ■校舎外観



東面



新館南面および水道橋駅方面



東面



西面

■内部階段



■1階



エントランス



エントランスホール

■地下1階



解剖実習室

■地下2階



動物舎入口に設置のエアシャワー

■2～3階



血脇記念ホール



血脇記念ホール前ラウンジ

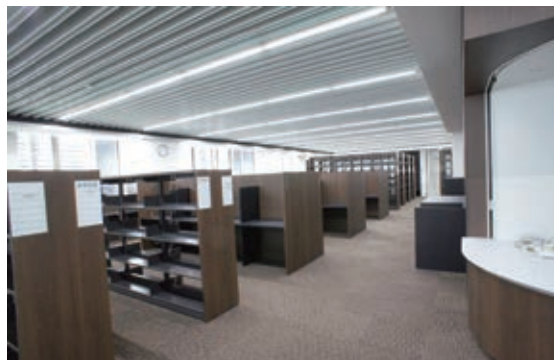


血脇記念ホール



血脇記念ホール椅子

■4階



図書館



図書館自習室



■6階



講座・研究室



講座・研究室

■7階



実習講義室

■10階



臨床基礎実習室

■11階

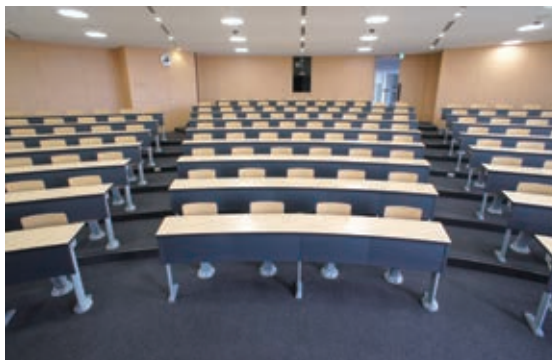


大教室



大教室前ロビー・ラウンジ

■11階



大教室



大教室前

■12階



実習講義室

■13階



実習講義室



実習講義室前屋上広場

## ■教授就任のご挨拶



### 英語研究室

森田 雅 義

この度、教授会のご推挙により、平成25年7月1日付けで英語研究室教授に就任いたしました。歴史と伝統、更には輝かしい実績を誇る東京歯科大学の教授を拝命いたしましたことは、大変光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は永年に亘り高等学校の教育に関わっており、その関係で一昨年度学校評価委員として、ある中学校を訪問する機会がありました。その際、本学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉を紹介しました。先生方は、この言葉にとっても感動をしていた、と後日その中学校の校長先生から報告を受けました。なぜならば、

この精神はどんな職業の人にも当てはまるのです。中学校の先生にとっては、「教師たる前に人間たれ」と言い換えることができます。私は改めてこの言葉の持つ素晴らしさを実感するとともに、その精神に足る将来の歯科医師を育てることが我々の使命であるということを再認識しました。

平成18年4月に本学にお世話になって以来、私は英語研究室の教員としてのみならず、学年主任、クラス担任として学生と関わってきました。私の思いは、それぞれの保護者の方からお預かりした大事な学生を、全員進級させたい、そして将来患者さんから信頼される歯科医師を育てたい、という気持ちでやってまいりましたし、これからも持ち続けたいと思っています。

1学年の教育は、大学教育の入り口であるばかりでなく、そこから始まる6年間の教育の礎となる大事な1年間です。その大事な教育に対して、微力ではありますが頑張っていく所存でございます。皆様方には、今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、教授就任の挨拶とさせていただきます。

## ■准教授就任のご挨拶



### 口腔外科学講座

野村 武 史

平成25年7月1日付で本学口腔外科学講座准教授を拝命いたしました。私は平成7年に口腔外科学第一講座（平成17年口腔外科学講座に統合）に入局し、野間弘康教授、内山健志教授、高野伸夫教授、そして柴原孝彦教授の指導を仰ぎ今日に至りました。私の大学院時代の研究テーマが「口腔がんの一次予防」でした。これは18年間の研究生生活の中で、私のメインテーマとして尽力した分野であります。そして口腔がんの早期発見に関する臨床研究のため、平成22年にプリティッシュコロンビア大学に研究留学させていただきました。帰国後BC Oral cancer prevention program teamで開発された、口腔がん診断機器「VELscope」の有用性を我が国で検証することが、現在の私の重要な研究テーマの一つとなっています。教育にお

きましては、口腔外科全般について普遍的な知識を与える立場にあるため、本学学生、臨床研修医、そして口腔外科を専攻する医局員に対し、広く口腔疾患の診断と治療、そして手術の指導をしています。さらに、現在千葉病院口腔外科医局長として歯科医療の向上に努めています。口腔外科は手術が基本となるため、医療安全の取組みに邁進することが現在の重要な職務の一つと考えています。

一方で専門が腫瘍学ということもあり、平成23年7月より文部科学省の事業であるがんプロフェッショナル養成基盤推進プランのコーディネーターを片倉 朗教授の後任として務めさせていただいています。「がんプロ」の連携事業には多くの職種が関係するため、この中で歯科医師が担う役割を今一度明確にし、円滑な連携を図りながら歯科医学の存在意義を高めるよう努力していきたいと考えています。

最後に、本講座は大正12年に遠藤至六郎先生が開設して以来今年で90年目を迎えました。歴史と伝統ある口腔外科学講座をさらに発展させ、併せて移転後の新たな大学作りに少しでもお役に立てるよう精一杯頑張りたいと思います。

どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 訃報 坂田三弥名誉教授ご逝去



本学名誉教授坂田三弥先生(生理学講座)は平成25年9月19日(木)脳梗塞再発のためご逝去されました。享年88歳。

坂田先生は昭和22年4月東京歯科大学1期生として入学、昭和28年3月卒業後、東京歯科大学専攻科(口腔外科学)に入学されました。昭和29年12月東京歯科大学生理学講座初代主任教授の山田教授が鳥取大学医学部へ転出されたことに伴い、鳥取大学医学部生理学講座助手として奉職されました。昭和35年9月東京歯科大学生理学講座の講師としてお戻りになられ、昭和39年4月第3代東京歯科大学生理学講座主任教授に昇任されました。これは歯科大学(6年制)を卒業し歯科大学の教授になられた最初の教授になります。昭和61年7月脳梗塞を発症されましたが、懸命なりハビリの結果、年末には大学に復帰されるに至りました。学内において研究部長、学生部長、図書館長などを、また大学設置審議会専門委員などの公的職務も歴任され、平成2

年定年退職されました。平成15年4月29日には勲四等旭日小綬章を叙勲されました。

母校に戻られてからの研究テーマは口腔感覚に焦点を絞り、口腔領域の神経終末とその応答性について詳細に研究されました。誰もが納得するきれいな生のデータを示すことの重要性を自ら身をもって示されました。実験は温血動物を使用していたので、夏でもストーブをつけ、実験室の室温を30度以上に保った環境下で実験を繰り返し行っていました。そんな実験室に朝からこもり、夕方50mあるロールフィルムを何本も現像し、乾燥のためフィルムを干している充実感に満ちた姿が昨日のこのように思い出されます。温・冷覚は自由神経終末が受容することは誰でも知っている知識になりましたが、かつてはルフィニ小体やクラウゼ小体が温・冷覚の受容器でした。それを明らかにできたのも丹念な実験の結果から明らかにできたことであります。坂田教授からは一つのことを丹念に研究することの重要性を教わりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(田崎雅和)

## 訃報 金光秀明名誉教授ご逝去



本学名誉教授金光秀明先生(物理学研究室)は平成25年9月28日、ご逝去されました。享年83歳。

金光先生は昭和27年3月に東京電機大学を卒業、同年4月に本学の助手にご着任後、昭和31年4月に講師、同36年4月に助教授、同46年4月に教授に昇任し、平成7年3月に定年退職され、本学名誉教授の称号を授与された。43年という長きにわたり本学の物理学教育に尽力される中で、歯科医学の基礎としての物理学と教養としての物理学をいかに両立させるか、あるいは役に立つ基礎物理学とはどうあるべきか、といった問いに真摯に向き合い、他の先生方と議論を重ねると共に、ご自身の講義をビデオに収めて内容を検討する、実習用テキストを電子化するなど、ご退職間際まで意欲的に教育に取り組んでおられた。また、研究の面

でも象牙質の弾性的性質の測定など、多数の足跡を残されている。

金光先生に直接のご指導をいただけたのは私が本学の非常勤講師をしていた4年間だけであったが、実習指導の留意点をそれぞれの手順、器具について丁寧に教えていただくなど、教育面、研究面で多くのご教授をいただいた。職務の合間にはご趣味の魚釣りの話に興じ、「あと何日で鮎釣りが解禁だ」「この前はこんなに大きいのが釣れた」などとお話になる先生は子供のように目を輝かせておられた。退職の時には「これで時間を気にせず釣りができる」とおっしゃっていたが、4、5年前にお目にかかったときに「もう釣りには行ってないんだ」と少し寂しそうであった。

先生、極楽浄土とやらへの旅路の途中には有名な川もあるようですから、どうぞゆっくりと釣りを楽しんでください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(望月隆二)

## 学内ニュース

### ■「大学・同窓会共催学年代表者会」を開催

「大学・同窓会共催学年代表者会」は、平成25年7月7日(日)、水道橋校舎本館14階会議室にて開催された。昨年より大学と同窓会の共催という形で行い、各卒業年次の学年代表者約60名の参加があり、大学に対する関心の高さが伺えた。

大学からは金子 譲理事長、井出吉信学長、石井拓男副学長、一戸達也副学長、矢島安朝水道橋病院長が出席。同窓会からは、矢崎秀昭会長、宮地建夫副会長、浮地文夫副会長、佐瀬俊之副会長、梅村長生副会長、高橋義一専務理事をはじめ役員の先生方、若手ネットワーク委員の先生方が出席した。

会は金子理事長、矢崎同窓会会長のご挨拶で始まった。続いて、金子理事長から法人の機能・役割並びに中期ビジョンについてのお話があった。その後、同窓会側からの報告等が行われた。同窓会側で事前に集約していた質問に対し、金子理事長と井出学長が答えた後、井出学長から「大学の現況」というテーマで水道橋移転事業の現在



学年代表者会で挨拶をする金子理事長：平成25年7月7日(日)、水道橋校舎本館14階会議室



「大学の現況」を説明する井出学長：平成25年7月7日(日)、水道橋校舎本館14階会議室

の状況、歯科大学を取り巻く環境(歯科医学教育、歯学部定員・授業料問題等)、研究、国際交流などについて資料を元に詳細説明があった。最後に矢島水道橋病院長から「水道橋病院の現況」について説明があった。

学年代表者会に続いて、(竣工したばかりの)新館血脇記念ホールを見学し、その後開催された懇親会では、昭和23年卒業の中久喜 喬先生より乾杯のご発声を頂戴し、世代を超えた参加者各位が和やかに歓談、大学・同窓会共催学年代表者会は盛会裡に終了した。



懇親会で挨拶をする石井副学長：平成25年7月7日(日)、水道橋校舎本館14階会議室

### ■水道橋校舎新館の竣工

「東京歯科大学水道橋校舎新館」(千代田区三崎町2丁目)が、平成25年7月に無事竣工の運びとなり、7月19日(金)午前10時30分より、竣工した新館12階にて「東京歯科大学水道橋校舎新館」竣工式を挙行了した。法人役員、学務役職者、同窓会、父兄会ほか大学関係者、工事関係者など、約120名出席のもとに神事が厳粛に執り行われ、金子 譲理事長、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長、寺本信三父兄会長、株式会社日本設計六鹿正治代表取締役社長、清水建設株式会社吉田和夫代表取締役副社長による玉串奉奠があり竣工式は無事終了した。

竣工式終了後、会場を7階に移して開催した直会では、建築主を代表して金子理事長、井出学長から工事関係者の労をねぎらう挨拶の後、金子理事長から、町田幸雄名誉教授(寄付者代表)、設計監理者、施工者に対して感謝状贈呈が行われ、矢崎同窓会会長の乾杯のご発声により、出席者一

同で、水道橋移転計画建設事業の成功を祝った。



起工式：平成25年7月19日（金）、水道橋校舎新館12階



金子理事長（右）より感謝状を贈呈される町田名誉教授（左）：平成25年7月19日（金）、水道橋校舎新館7階

### ■父兄会定時総会・修学指導方針説明会および水道橋校舎新館竣工祝賀会開催

平成25年7月20日（土）午後1時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールおよび新館5階第3講義室において平成25年度父兄会定時総会が開催された。総会には約600名近い保護者が集まった。

総会は、小山 亨副会長の開会の辞で始まり、本年4月に父兄会長に就任した寺本信三会長から新任の挨拶と施政方針などが述べられた。井出吉信名誉会長（学長）から挨拶を頂いた後、第6学年保護者の松田幸夫氏が議長に選出され、報告・審議事項に移った。

平成24年度会計収支決算、平成25年度父兄会事業計画、会計収支予算案、傷害共済基金緊急災害対策準備費の支出（案）などの議案が審議され、いずれも提案どおり承認可決された。引き続いて父兄会役員任期満了に伴う改選の審議に移り、慣例に従って選考委員会が設置され、同委員会の

推薦を受けて平成25年度父兄会役員が下記のとおり選任された。（業務分担はつぎのとおり）

会 長：寺本信三

副 会 長：小山 亨、齋藤 正、川崎輝子、橋本東児

常務理事（庶務）：荻原俊美、福田伸一、

常務理事（会計）：高崎一郎、中川雅晴

常務理事（奨学）：石 和久

常務理事（傷害）：石井俊昭、松崎英雄

常務理事（広報）：飯島俊一、小林容子

理 事：原島 晃、丹沢朝彦、村上雅一、  
瀧上恵美子、藤関雅剛、清水 泰、  
山口和彦、阿部真理、伴野和夫、  
鈴木千枝子、黒河宏之、鈴木幸一、  
森 正浩、山田由美子、  
安藤雄一

監 事：鳩貝尚志、小林一公

なお、当日は総会に先立ち、午前8時30分から本館、新館、さいかち坂校舎を開放して自由見学が行われ多くの保護者が3校舎を見学した。また、午前9時から本館13階において学年主任・副主任による三者個別面談会も実施された。

午後2時30分から保護者を対象にした大学主催による修学指導方針説明会が開催され、井出吉信学長から大学の修学に関する総括説明、石井拓男副学長から学生指導の基本方針と水道橋校舎移転に関すること、河田英司教務部長から勉学に関する指導指針、佐藤 亨学生部長から学生生活に関する指導方針について、それぞれの立場から説明が行われた。

夕刻から、会場を東京ドームホテルに移し、「水



父兄会総会で挨拶する寺本父兄会長：平成25年7月20日（土）、水道橋校舎新館・血脇記念ホール

道橋校舎新館竣工祝賀会」が開催された。



修学指導方針説明会で説明する井出学長：平成25年7月20日（土）、水道橋校舎新館・血脇記念ホール

### ■科学研究費使用ルール説明会開催

平成25年7月24日（水）午後6時より、千葉校舎第2教室において、「科学研究費使用ルール説明会」が開催された。これは当年度の科学研究費取得者が、研究費の使用ルールを理解し、適正に使用できるよう、毎年この時期に開催しているものである。また、取得者だけでなく、応募資格のある研究者には出席を呼びかけている。当日は市川総合病院、水道橋校舎へテレビ会議システムで配信され、合計60名の研究者が出席した。

説明会は、はじめに研究部担当者より「交付決定後の手続きと電子申請システムについて」と題して初めての取得者にもわかりやすい説明があった。続いて大学会計課の各担当者より「年間スケジュール及び研究計画変更手続き」、「直接経費の使用ルール」、「物品等調達の手続き」について、当日会場で配付した本学作成の小冊子「平成25年度科学研究費使用ルール」に基づいて詳細な説明があった。また、日ごろ研究者から事務担当者に寄せられる直接経費に係る質問にも、とりまとめ



説明する渡嘉敷 俊大学会計課事務員：平成25年7月24日（水）、千葉校舎第2教室

て回答した。

不正防止推進室からは、不正使用の事例を交えながら、本学の今までの不正使用防止の取り組みと再発防止策の報告があった。

最後に総括として、研究部長・石原和幸教授、同副部長・村松 敬教授より、各研究者に研究費の計画的な執行とルール遵守とともに、来年度の科学研究費応募へ向け、積極的な対応をするよう要望があった。

### ■千葉病院医療連携講演会開催

平成25年7月25日（木）午後3時より、千葉校舎講堂において、「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会、習志野市歯科医師会、印旛郡市歯科医師会、市原市歯科医師会、八千代市歯科医師会、船橋歯科医師会、江戸川区歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉病院との連携強化を目的として開催している。内容は午後3時からの講演会部門、午後7時からの懇談会部門の2部構成となっている。

演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会の代表委員と千葉病院の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定し、講演を行っている。

※今年度の演題および演者

#### 【ワークショップ】

1. いま注目されるメタルフリー治療
  - (1) 「メタルフリーで行う補綴治療①クラウンブリッジ領域での対応」  
クラウンブリッジ補綴学講座  
教授 佐藤 亨
  - (2) 「メタルフリーで行う補綴治療②有床義歯領域での対応」  
有床義歯補綴学講座 講師 大神浩一郎
  - (3) 「歯科金属アレルギーについて」  
臨床検査病理学講座 講師 村上 聡
2. 安全な歯科治療のため
  - (1) 「ビスホスホネート製剤投薬患者における歯科の対応」  
口腔外科学講座 准教授 野村武史
  - (2) 「歯科治療と抗凝固療法薬」  
口腔外科学講座 助教 右田雅士

(3) 「歯科治療時におけるHBV・HCV感染対策」  
内科 教授 大久保 剛

【ミニレクチャー】

1. 「歯の外傷の固定法最新ガイドライン」  
小児歯科学講座 講師 米津卓郎
2. 「酸蝕症とブラッシングー食後30分間ブラッシングを避けることの是非について」  
社会歯科学研究室 教授 眞木吉信
3. 「壮年期矯正治療の現状」  
歯科矯正学講座 教授 末石研二

当日は204名の参加者を迎え、井上 孝千葉病院院長ならびに柴原孝彦医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。講演会では各演題20分間の講演が行われ、発表後の質疑応答時には、日常診療における各種問題点の解決方法や治療に対する創意工夫について意見が交換された。休憩時間中には、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて懇談会が開催され、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気を残しつつ散会し、医療連携講演会は無事終了した。



挨拶をする井上千葉病院院長：平成25年7月25日（木）、千葉校舎講堂

■第12回水道橋病院症例報告会開催

平成25年7月25日（木）午後6時30分より、水道橋校舎本館・第1講義室において、第12回水道橋病院症例報告会が開催された。この会は、紹介医の先生方との密接な医療連携を推進し、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めることを目的として毎年開催しているものである。今

回は、「糖尿病、理解を深め健口管理」をメインテーマに、開業医の先生方が日常臨床で遭遇する諸問題の解決の糸口となるよう、歯科を中心に全身に関連する情報を提供できるよう企画された。

会に先立ち、矢島安朝水道橋病院院長より、日頃の御礼と挨拶があった。第1演題は渋川義宏非常勤講師（口腔健康臨床科学講座）により「歯周病と糖尿病の関わりー歯周病専門医の立場からー」と題し、糖尿病が歯周病に及ぼす影響及び歯周病が糖尿病に及ぼす影響について説明し、糖尿病患者の歯周治療における注意点について解説が行われた。第2演題は林 丈晴先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所准教授）により「増加している糖尿病患者をいかに診るかー合併する多臓器障害と感染症の管理ー」と題し、様々なリスクを抱えた糖尿病患者への対応、留意点について説明が行われた。第3演題は関根秀志准教授（口腔インプラント科）により「要注意！糖尿病とインプラント」と題し、インプラント治療への糖尿病の影響について説明が行われた。最後の第4演題は高野正行准教授（口腔外科）により「糖尿病を有する患者の抜歯と観血処理の留意点」と題し、糖尿病患者の観



挨拶をする矢島水道橋病院院長：平成25年7月25日（木）、水道橋校舎本館・第1講義室



症例報告会風景：平成25年7月25日（木）、水道橋校舎本館・第1講義室



血処理時のポイントについて解説が行われ、併せて糖尿病以外のいくつかの合併症の患者への対応等について解説が行われた。

また、各診療科・看護部・歯科衛生士部によるポスター発表が10演題、および協賛業者4社による展示も行われ、盛会のうちに終了した。

### ■効果的な保存修復学教育のためのワークショップ開催

平成25年7月28日(日)、水道橋校舎本館13階において、効果的な保存修復学教育のためのワークショップが開催された。本ワークショップは非常勤講師の先生方と本学専任教員が一体となり、本学学生が実際の臨床を具体的にイメージし、卒業・国家試験合格・臨床研修につながる、基本的な知識と技能を身につけることができるカリキュラムを作成するとともに、水道橋移転に伴う人的資源を考慮した講義・実習方法および内容を検討するものである。これにより、将来の優れた歯科医学教育の指導者を養成し、教育体制の更なる改革と東京歯科大学の教育力のより一層の充実をめざす事を趣旨として開催された。

今回はご多忙の中、10名もの非常勤講師の先生方にご賛同いただき、本学からのスタッフおよび参加者と合わせ25名が集まり、登院前の段階での保存修復学教育のアウトカム設定からはじまり、非常勤講師と専任教員が協同してアウトカムを達成させるためのカリキュラム・プランニング等、テーマに沿った4つのセッションからなるプログラムが実施された。2グループに分かれ、限られた時間内にグループ討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップであった。

参加した非常勤講師の受講者からは、「大学側

が求めている教育方針を理解するのによい機会であった。」「ワークショップに参加したことで、今の保存修復学臨床基礎実習で指導すべき点がわかった。」「本学学生へのより良い教育を提供するために専任教員と非常勤講師とが積極的に意見交換を行うことの重要性を、このワークショップを通して痛切に感じた。」等の感想が挙げられた。本ワークショップは今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実を目指している。

### ■第8回東京歯科大学公開講演会

平成25年7月28日(日)午後1時より、千葉校舎第5教室において、第8回東京歯科大学公開講演会が、地元千葉市美浜区真砂の関係団体(真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会)との共催で開催され、美浜地区を中心に175名が来場した。

なお、今回の講演会も昨年同様に、平成25年4月から平成26年3月に千葉市内外含め各所で開催される「千葉市科学フェスタ2013」のサテライトイベントの一環としても参加することとなった。

当日は、橋本貞充広報・公開講座部長の司会・進行のもと、共催団体を代表して佐久間雄二会長よりご挨拶をいただき、次の講演が行われた。

講演『全身と歯科とのかかわり Topics：歯科医からのアドバイス

- 1) COPD (慢性閉塞性肺疾患)の患者さんへ
- 2) 虫歯がないのに歯が痛い患者さんへ  
歯科麻酔学講座 一戸達也教授

講演の前半では、最近増加している病気のひとつであるCOPDについて、この病気の患者さんは歯科治療中に息が苦しくなったり、口腔乾燥や誤嚥性肺炎などのリスクも高まる。そこで、COPDの患者さんへ向けて歯科医の立場からアドバイスとしてお話をされた。そして後半では、虫歯がないのに歯が痛む症状で、これは様々なストレスが原因で肩こりや頭痛がひどく、その延長線として筋肉の凝りから歯が痛くなる筋性歯痛と呼ばれている。この症状を改善するには、筋



グループ討議の様子：平成25年7月28日(日)、水道橋校舎本館13階8セミナー室

肉の凝りを治すことが重要となることから、患者さんに向けていくつかのアドバイスをお話された。

参加者アンケートでは「大変分かりやすく、興味深いお話だった。」「勉強になった。」「毎年講演会を楽しみにしている。」などの意見が多く寄せられた。

なお、今回は東京歯科大学管弦楽団による第36回定期演奏会が午後2時より千葉校舎講堂において同日開催され、こちらにも大変多くの来場者があり成功裡に終了した。



講演する一戸教授：平成25年7月28日（日）、千葉校舎第5教室



講演会風景：平成25年7月28日（日）、千葉校舎第5教室

### ■第125回歯科医学教育セミナー開催

平成25年7月29日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第125回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「チーム医療を意識した市川総合病院での臨床実習」と題し、オーラルメディスン・口腔外科学講座の片倉 朗教授より説明がなされた。

まずはじめに、地域の中核病院である市川総合病院の概要について報告があった。その中で、歯科・口腔外科の役割として、従来の口腔外科を中

心にした対応だけでなく高齢者や高血圧症、糖尿病等の様々な疾患の既往がある患者の歯科の対応が地域連携医療において重要な位置をしめていると説明があった。

また、院内と歯科診療所を合わせて紹介率が60.2%ある中で、院内からの紹介については、内科、神経内科、外科、脳神経外科等からの周術期の口腔機能管理や摂食嚥下障害への対応が増加していると報告があった。

このような背景から、オーラルメディスン・口腔外科学講座の教育は、口腔に発生した医学的問題点を内科診断学的な思考回路で全身の問題点、社会的問題点まで加味した大局的な観点で解決する能力を涵養することに前提としているとのことであった。カリキュラムを作成する際には、老年歯科医学の領域でオーバーラップしている有床義歯補綴学、歯科麻酔学、口腔外科学、摂食嚥下と、双方で内容を確認しながら効率的に構築しつつあると説明があった。

それらを踏まえ、第5学年の臨床実習については、12 - 13名を前期は一般医科実習、後期はオーラルメディスンの内容を中心に実施していると報告があった。内容としては、千葉病院・水道橋病院で習得してきたものにチーム医療・一般医学的知識も追加して、知識・態度を統合し、社会のニーズにあった歯科医療を提供できる技能を涵養することを目標に実施していると説明があった。このような医科歯科連携の実習が実施できる背景には、医科の先生方をはじめ、医療専門職のスタッフの協力をいただきながら取り組める環境があるということであった。

今後の市川総合病院の臨床実習の取り組みとしては、これからの歯科医療で重要になってくる要



説明する片倉教授：平成25年7月29日（月）、千葉校舎第2教室

介護高齢者の対応や周術期の口腔機能管理等のチーム医療の中での歯科の役割を認識させることでありこと、本学の学生がこれらの教育を市川総合病院で受けることは今後の歯科医療の質の向上に直結すること、そのために教育環境をさらに改善し内容の充実のために教育に関わっていただくスタッフにさらなる理解を求めていく努力をしていると説明があった。

当日は多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。

### ■平成25年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年7月22日(月)午後6時より、水道橋校舎本館・第2講義室において、平成25年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療品の安全使用のための業務手順書に関する研修会」として、水道橋病院薬局の山根理恵子主任薬剤師、「医療安全管理マニュアルに関する研修会」として、麻酔科の半田俊之講師がそれぞれ担当した。

初めに、山根主任薬剤師より「医薬品の安全使用のための業務手順書」の内容に基づき、「特に安全管理が必要な医薬品」、「特定生物由来製品取り扱い規約」、「調剤マニュアル」の3項目について、手順書を遵守するよう詳細な説明があった。質疑応答では、矢島病院長より要注意薬の中でも特に相互作用の多い薬の一覧をいつでも見られるような工夫が必要との指摘があった。

続いて、半田講師が医療安全管理について解説した。医療安全の歴史として、2002年の世界保健総会における医療安全、2011年WHO医療安全カリキュラム、日本での医療安全への取り組みについての説明があり、医科に比較して歯科の医療安全対策が遅れている事が指摘された。昨今の医療の進歩により、医療が複雑化し医療事故が起きやすくなっている。しかしながら、「人は誰でも間違える」という視点から、医療事故防止のために、良好なコミュニケーション、報告、指摘、フィードバックを行うこと、医療安全管理マニュアルに則った診療の重要性が強調された。

質疑応答では、矢島病院長が医療安全管理マニュアルに関するテスト実施について触れられた。今回は医療安全への意識向上が私達職員にとって急務であることを再認識させられる大変有

意義な研修会となった。



講演する山根主任薬剤師：平成25年7月22日(月)、水道橋校舎本館・第2講義室



講演する半田講師：平成25年7月22日(月)、水道橋校舎本館・第2講義室

### ■平成26年度臨床研修歯科医のための病院説明会開催

平成26年度臨床研修歯科医のための病院説明会が、平成25年7月4日(木)午後6時より、千葉校舎第4教室において、8月3日(土)午後1時より、水道橋校舎本館13階において各々開催された。

本説明会は千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の三病院合同で年2回開催されている。7月4日(木)は本学の学生を対象に、8月3日(土)は他大学の学生を対象に本説明会を行い、総計213名の参加があった。

説明会は千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の順に各病院の臨床研修プログラムの特色・概要を説明し、その後、高橋俊之臨床研修委員長より9月8日(日)実施の三病院合同で行う臨床研修歯科医選考についての説明を行った。

臨床研修歯科医選考の説明後、希望者に対して、本学に協力している臨床研修施設のうち、単独型、及び管理型臨床研修施設として独自の研修プログラムを作成した、つがやす歯科医院、Uク

リニック五十嵐歯科、医療法人社団八龍会すずき歯科医院、医療法人社団歯友会ファミリー歯科、医療法人社団彰美会吉本矯正歯科、医療法人社団涉仁会佐々木歯科・口腔顎顔面ケアクリニック、こばやし歯科クリニック、医療法人社団千歯会大綱歯科医院、医療法人社団健恒会薬円台歯科より、各施設の説明を行った。

最後に、各施設で個別質問の時間を設け、参加者からの質問に応じて説明会は無事に終了した。



各施設からの説明を真剣に聞く参加者：平成25年7月4日（木）、千葉校舎第4教室

### ■水道橋校舎新館開校に伴う説明会開催

平成25年8月31日（土）の水道橋校舎新館竣工記念講演・記念式典・祝賀会に続き、9月2日（月）には、全学年の学生たちに向けて、水道橋校舎新館開校に伴う説明会が開催された。

真新しい校舎に初めて足を踏み入れた学生たちの歓声の中、血脇記念ホールのシックな客席は、1、2年生および5年生の学生達で埋められた。また、3年生、4年生、6年生は、これから授業が始まるそれぞれの教室の机に座り、前面のスクリーンに映し出される映像で開校に伴う説明会に参加した。最初に、井出吉信学長から水道橋校舎新館



説明する井出学長：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

の開校について全学生に向けての挨拶があり、それに続いて、石井拓男副学長より、各学年の代表に、水道橋校舎新館の開校を記念する品が手渡された。一戸達也副学長からのお話の後、河田英司教務部長と佐藤亨学生部長より、新校舎での講義・実習や学生生活についての詳細な説明があり、閉会となった。



各学年代表に記念品を手渡し石井副学長：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



血脇記念ホールで説明を聞く1、2年生および5年生：平成25年8月31日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

### ■市川総合病院平成25年度防災訓練実施

市川総合病院では9月3日（火）に、建物設備等の点検及び自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

まず、午後1時30分より、栄養管理室前広場において、消火器及び屋内消火栓取り扱い訓練が市川市西消防署員指導により行われ、続いて午後2時30分から大規模な地震が発生した際の防災センターへの通報訓練が行われた。

午後3時からは、火災発生を想定した屋内消火栓取り扱い訓練及び通報・避難訓練が北病棟5階ナースステーション付近を発火場所として行われた。患者様の安全を確保するための初期消火活動

から実際に模擬患者等を設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われ、最後に消防署員より講評をいただいて終了となった。



屋内消火栓取り扱い訓練：平成25年9月3日（火）、市川総合病院栄養管理室前広場



病棟における模擬患者搬送風景：平成25年9月3日（火）、市川総合病院北病棟5階

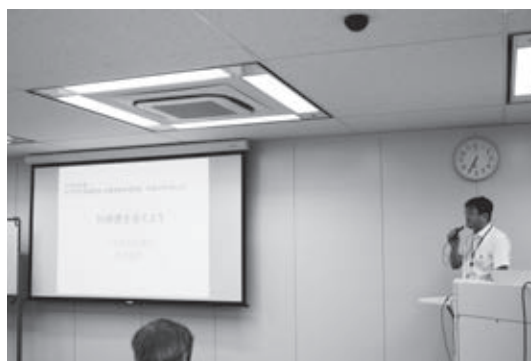
### ■平成26年度科研費公募要領等説明会開催

平成25年9月17日（火）午後6時30分より、水道橋校舎本館・第2講義室にて「平成26年度科研費公募要領等説明会」が開催された。毎年、この時期に文部科学省・日本学術振興会主催の公募要領説明会が開催されており、本学では、この説明会の報告を行うとともに、次年度の科研費申請に向けての注意事項、研究費の使用ルール等を本学の研究者に周知させるため、毎年この時期に開催している。

説明会は、まず、研究部長・石原教授の挨拶で始まり、次に数多く科研費に採択されている小児歯科学講座の新谷教授より「科研費を当てよう」と題し、研究計画調書記載のポイント等について講演が行われた。続いて、平成26年度科学研究費公募に関する注意事項等、また科研費の使用ルールについて、研究部と大学会計課の担当者より説明があった。最後に、不正防止推進室から、研究

費の不正使用防止の重要性についてあらためて研究者に理解を求めた。

当日は、市川総合病院、千葉校舎へもテレビ会議システムで配信され、3校舎合計で93名の研究者が出席し熱心に説明に耳を傾けていた。



講演する新谷教授：平成25年9月17日（火）、水道橋校舎本館・第2講義室

### ■市川総合病院 慶應義塾大学末松 誠医学部長講演会開催

平成25年9月19日（木）午後6時より、市川総合病院2階講堂において慶應義塾大学末松 誠医学部長講演会が開催された。井出吉信学長の挨拶から始まり、座長である西田次郎市川総合病院病院長より「がんの代謝システム制御－先端医療技術開発によるブレイクスルー」と題された講演について、末松教授率いる研究グループが世界に先駆けて定量的質量分析イメージングシステムを開発し、虚血・低酸素病態やがんにおける代謝特性の研究を推進しているとの説明があった。講師である末松教授から、グルコース代謝は通常酸素の消費と共役してエネルギーの維持に寄与するが、がんでは酸素濃度の低下に関わらず解糖系が亢進、乳酸が生成することが知られており Warburg 効果として名高いことが例に挙げられ、HIF, p53 などががんの増殖、進展の制御に関わる分子群と代謝システムの類似性も明らかになってきたとの説明があった。さらに、がんはグルタチオン H<sub>2</sub>S を始めとする抗酸化防御系を巧みに利用して細胞死を免れるメカニズムを持つことが明らかになってきたとの説明があった。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、菅 貞郎市川総合病院副病院長の挨拶で閉会した。

市川総合病院教職員である医師、歯科医師、コメディカルを中心に本学大学院生を含む131名が

参加し、今後東京歯科大学と慶應義塾大学医学部の教育・研究・臨床における更なる連携と歯学・医学の進歩と発展に向けて、学術活動を通じて交流を深める貴重な会となった。



講演される末松医学部長：平成25年9月19日（木）、市川総合病院2階講堂

### ■第31回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成25年9月21日（土）および22日（日）の2日間、水道橋校舎本館において、第31回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、歯科医師臨床研修制度における「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」に則り、指導歯科医講習会としての認定を受け、一般財団法人歯科医療振興財団と共同開催したものである。

今回は、本学の専任教員および全国の歯科医院に勤務する歯科医師の合計40名が受講した。ワークショップは9つのセッションで構成され、講義、5グループに分かれての討議・発表を通じて、歯科医師臨床研修制度の概要、臨床研修の問題点の抽出と対応策の検討、段階的なカリキュラムの計画・立案等を習得し、指導医に必要なカリキュラム開発能力ならびに研修歯科医を養成する指導力



グループ討議風景：平成25年9月22日（日）：水道橋校舎本館

の向上を目指した。

最後に、受講者全員に東京歯科大学学長、歯科医療振興財団理事長および厚生労働省医政局長連名の修了証が授与され、2日間の日程を無事終了した。

### ■平成25年度 教育ワークショップ報告会開催

平成25年9月27日（金）午後4時より、水道橋校舎本館・第1講義室において、平成25年度教育ワークショップ報告会が開催された。今年度は『「クリッカー」を含めた新たな能動的学習手法について－習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカー活用－』『学生支援・サポート体制のありかたについて』『移転を踏まえた臨床実習について』の3つをテーマとし、井出吉信学長の挨拶で開会された。河田英司教務部長の司会のもと、『「クリッカー」を含めた新たな能動的学習手法について－習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカー活用－』については、社会歯科学研究室の平田創一郎教授、『学生支援・サポート体制のありかたについて』に関しては、口腔超微構造学講座の山本 仁教授を委員長とするワーキンググループにより、検討を重ねてきた結果について発表および質疑応答がシンポジウム形式で行われた。また、『移転を踏まえた臨床実習について』は歯科麻酔学講座の一戸教授より現在の進捗状況と今後の展望について説明があった。

『「クリッカー」を含めた新たな能動的学習手法について－習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカー活用－』については、はじめに、クリッカーシステムの設置場所等の現況について報告があった。主なクリッカーの機能は出席と授業中における学生情報の参照、多肢選択式ポストテストへの対応、学生が講義内容を理解できない時に押すOMT（One More Time）ボタン、それらのデータは集計し、次回の授業に向けて活用できるとのことであり、その機能を使った6年生の千葉校舎における総合講義と1、2年生のさいかち校舎における教養課程での活用事例について説明があった。

続いて、授業後のクリッカーデータの利用例については確信度使用の有用性についての検討結果の説明があった。クリッカーはプレポストテスト



**■入試ガイダンス開催**

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが7月7日(日)に午後1時より、7月27日(土)は午後2時より、8月24日(土)と9月29日(日)は午後1時より水道橋校舎本館13階で開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況、平成26年度入学試験の概要等について説明を行った。入試科目のポイントでは推薦入試で出題される同等レベルの例題を提示した。これは今年度からの新たな試みであり、参加者は例年以上に大変熱心に聞き入っていた。

また、毎回異なる模擬授業が実施され、7月7日(日)には口腔超微構造学講座の山本 仁教授による「口の中をみてみよう! ~噛んで、飲み込むまでに働く構造~」、7月27日(土)には歯科麻酔学講座の一戸達也教授による「歯科医師になるということ - 相手は「生きている」患者さん-」、8月24日(土)にはオーラルメディスン・口腔外科学講座の片倉 朗教授による「君達が担う歯科医療は…健康長寿に貢献する歯科医師になるために」、9月29日(日)には法人類学研究室の橋本正次教授による「歯科における人類学の話」と題した授業が行われた。

そして、希望者による見学がさいかち坂校舎と水道橋病院で行われ、更に今年度からは新館校舎の見学もツアーに組み込まれ両日とも多くの方が訪れた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。4回合わせて延べ570名を超える参加があり、大盛況なガイダンスとなった。



模擬授業風景：平成25年7月27日(土)水道橋校舎本館・第1講義室

今回のガイダンスは、12月14日(土)に水道橋校舎本館13階で、午後2時から実施する予定である。

**■平成25年度第4回水道橋病院教職員研修会開催**

平成25年9月30日(月)午後6時より、水道橋校舎本館・第2講義室において、平成25年度第4回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、株式会社【サラヤ】の羽鳥真美氏を講師に迎え感染対策講習会として、標準予防策(スタンダードプリコーション)についての講演を伺った。

標準予防策については、手指消毒と个人防护具の説明があった。

標準予防策は日頃から学習し、常に心がけているが、講演により知識の再確認と最新のトピックスなどを伺うことができた。

手指衛生に関して、アルコール手指消毒剤の使用法や有効性などの詳しい具体例が示され、非外科的処置の場合は目に見える汚れか否かで石けんを使用した手洗いか、アルコールでの手指消毒か選択する事ができる。

アルコール手指消毒は化学的殺菌作用によるものであるため、携帯可能であらゆる場所において手指消毒が実行できる。

また、个人防护具の必要性や正しい装着の仕方など図解で説明があり、初心者にもとても解り易い内容であった。

正しい知識と綿密な努力の上に、感染事故の防止および医療安全管理の成立がある。

本講演で得た知識を日々の業務に生かし、医療の質を高めていくことが大切であると実感した。



# 平成25年度 Elective Study

## ■平成25年度 Elective Study表彰式

平成25年6月18日(火)と7月8日(月)に、一昨年度より開催されているElective Studyプログラムに選出された学部学生に対し、各学年の教室で表彰式が行われた。対象は、前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成25年度 Elective Study 選考委員会」により選考された、学部学生18名である。6月18日(火)はさいかち坂校舎において第1、2学年の8名、7月8日(月)は千葉校舎において第3学年から第6学年の10名が表彰を受けた。当日は同窓会会長の矢崎秀昭先生にそれぞれの校舎にお越しいただき、井出吉信学長と共に選出者一人ひとりに表彰状が手渡され、激励のお言葉を頂戴した。東京歯科大学Elective Studyは、本学の学生が海外の大学施設等で研修を行うことにより、広い視野を持ちながら勉学にいそしみ、将来の歯科界および東京歯科大学を担うことができる人材を養成することを目的とした海外留学制度である。

本年度は第1学年から第3学年は本学の姉妹校である台北医学大学、第4学年から第6学年は主にニューヨーク市のコロンビア大学において行われる。

学生たちがElective Studyで国際人として広い視野を持ちながら学び、実り大きい時間を過ごし将来の歯科医学界を担ってくれる人材になってくれることを期待している。

### ○Elective Study参加学生 18名

- |      |       |       |
|------|-------|-------|
| 第1学年 | 桑原 正浩 | 中里 伊吹 |
|      | 二村 好一 | 安原 才門 |
| 第2学年 | 大坪 周平 | 草野日花里 |
|      | 下山 圭太 | 鈴木 真由 |
| 第3学年 | 倉澤 馨  | 小池 将人 |
|      | 添田 萌  | 館岡 萌  |
| 第4学年 | 小宮山雅道 | 中野 僚子 |
| 第5学年 | 明石 良彦 | 安田 直純 |
| 第6学年 | 大竹 智久 | 片野 壮  |



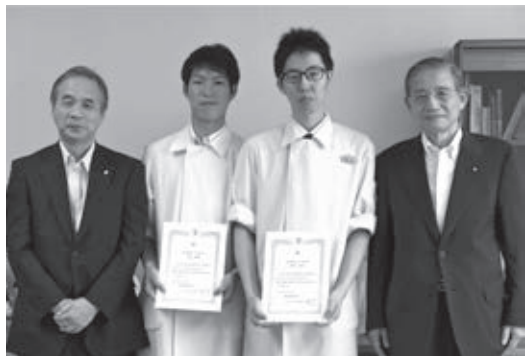
左から、中里君、桑原君、矢崎同窓会会長、井出学長、二村君、安原君：平成25年6月18日(火)、さいかち坂校舎第1講義室



左から、矢崎同窓会会長、中野さん、小見山君、井出学長：平成25年7月8日(月)、千葉校舎第1教室



矢崎同窓会会長(右)から表彰状を受ける添田さん(左)：平成25年7月8日(月)、千葉校舎第3教室



左から井出学長、安田君、明石君、矢崎同窓会会長：平成25年7月8日(月)、千葉校舎学長室

**■平成25年度 Elective Study報告****1. 「台北医学大学における Elective Study」**

引率・阿部伸一(解剖学講座・教授)

山本 仁(口腔超微構造学講座・教授)

Elective Studyは昨年まで国際交流部(旧国際渉外部)主催で行われていたが、本行事は学生教育の一環として開催されることから本年度から教務部が主催し、国際交流部が立案およびコーディネートする形で実施されることとなった。

第1学年から第3学年までのElective Studyは平成25年7月21日(日)から7月25日(木)の日程で、昨年、一昨年と同様に台北医学大学および2つの病院を含めた施設を中心に行われた。前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成25年度 Elective Study 選考委員会」で選考された学生(昨年までは一学年2名だったが本年より一学年4名になった)12名および引率2名を加えた総勢14名での研修となった。参加学生は数回ミーティングを行い、団長として第3学年の倉澤 馨君、副団長として第3学年の小池将人君を選出した。また台湾の文化、風習などを調べるとともに、Elective StudyのGIOとSBOを設定し、各自Elective Studyの目的を明確にした。

成田を夕刻に発ったため松山空港の到着が午後9時を過ぎていたが、空港で鄭信忠歯学部長、張維仁先生および台北医学大学の学生6名の出迎えを受けた。台北医学大学の学生がエスコートする形で本学の学生をタクシーに乗せてホテルに向かい、ホテルロビーで短い時間であるが、自己紹介をして別れた。この後夜遅い時間であったが、これまでのElective Studyにもご尽力頂いた林哲堂先生主催の夕食会が開かれた。翌朝、台北医学大学の学生とホテルロビーで待ち合わせ台北医学大学校舎へと向かった。昨年までは現地交通機関(バスや地下鉄)を利用して移動したが、本年は参加人数が増えたことからバスをチャーターし、移動手段とした。台北医学大学では昨日空港までお迎えいただいた鄭先生、張先生のほかこれまでのElective Studyでお世話になっている蔡恒恵口腔医学院副院長が出席して歓迎会が開かれた。学生たちはそれぞれ自己紹介や記念品の交換を行い、本格的な学生交流が始まった。本学のメンバーである倉澤団長は2回目のElective Studyであり、また台北医学大学の学生にも2回

目の参加となる学生がおり、例年に比べ学生間の交流がスムーズに開始された印象を受けた。学内見学ではマネキンが設置された実習室などを見学したが、参加学生が第1学年から第3学年であり、まだ臨床科目の授業・実習を行っていない学生がほとんどのため学生たちには非常に新鮮な印象を受けたようで、興味深く見学をしていた。大学見学後、故宮博物館で悠久の歴史の遺産に触れた後、忠烈祠で衛兵交代式を見学した。これら見学やホテルに帰ってからの自由時間を通して学生たちは交流を深めていった。夜には鄭先生主催の食事が開かれ、台湾料理を満喫した。3日目は雙和醫院(Shuang Ho Hospital)で台湾における歯科の状況やそのなかでの雙和醫院の役割などの講義を受けた。講義の一部は一昨年台北医学大学が本学学生を最初に受け入れてくださったときに参加した学生が担当した。4日目の朝に台南に移動するため台北医学大学のほとんどの学生との交流がこの日が最後となり、学生たちは各学年でグループに分かれて夜市を散策し台北での最後の夜を楽しんだ。この時も昨年本学学生を迎えてくれた台北医学大学の学生が飛び入りで参加し、今年で3年目を迎える台湾のElective Studyでの学生交流が着々と実を結んでいる印象を受けた。4日目、台北最後の朝、台北医学大学の学生と本学の学生たちは台北駅へと向かった。松山空港で出迎えを受けたのがほんの数日前とは思えないほど学生たちは親密になり、別れを惜しみ、再会を約束していた。張先生、台北医学大学の学生1名と我々は新幹線に乗り、台南に向かった。台南の訪問先は奇美醫院(Chi Mei Medical Center)であり、我々が到着すると邱仲慶病院長を始めとした奇美醫院の教授が参加して歓迎式が行われた。歓迎式では単なるセレモニーだけではなく、本学学生からの質問に答える形で奇美醫院と奇美醫院が台南地方で果たす役割や意義についての説明が行われ、学生が理解しやすいように配慮していただいた。また我々の訪問時間に合わせて顔欽培口腔外科主任の手術が行われ、学生たちは手術室に入りこれまでの見学とはまた別の意味で緊張して手術見学を行った。手術見学後の昼食時にも顔主任が同席され、先ほどの手術についての解説を図を描きながら説明してくださったほか、学生からの質問にも丁寧に対応していただいた。夜には邱病院長を始

めとする奇美醫院の先生方により食事が開かれた。先生方は学生たちと気さくに談笑し、台北医学大学の学生たちとの交流とは別のよい交流ができたと思う。5日目の早朝、ホテルから高雄空港に向かい帰路についた。

今回学生の引率をして感じたのは、昨年、一昨

年の Elective Study により台北医学大学と本学の友好が台湾の地で確実に育まれていることであった。特に昨年、一昨年に我々を迎えてくれた学生がいろいろな形で参加してくれたこと、台北医学大学、雙和醫院、奇美醫院のいずれでも大変な歓迎を受け、学生たちのために新しい企画を考えて



松山空港でお迎えいただいた鄭信忠歯学部長、張維仁先生および台北医学大学の学生との記念写真  
これからよろしくお祈りします



台北医学大学校舎での歓迎会后、いよいよ学生交流の始まりです



新幹線の中で。これから台南に向かいます



奇美醫院の歓迎会后の集合写真。多くの質問に答えていただきました



ランチを取りながら、見学させていただいた手術の説明を受けました

下さっていることがなによりそれを証明していると思う。台北医学大学、雙和醫院、奇美醫院の先生方、関係された皆様、とくに期間を通じて一緒にくださった張維仁先生に感謝を申し上げます。

## 2. 「コロンビア大学における Elective Study」

引率・阿部伸一（解剖学講座・教授）

ニューヨーク市のコロンビア大学において、「Elective Study」が平成25年8月18日（日）から8月23日（金）の日程で、第4学年から第6学年までの各2名、合計6名の学生参加のもとに開催された。教務部主催という形で、国際交流部が立案およびコーディネートをした「Elective Study」プログラムの目的は、海外の大学での施設見学、特にUSAと日本の歯科医学教育の違いを学ぶために行うもので、東京歯科大学では一昨年、昨年に引き続き3回目の試みであった。選考委員会により選考された学生は昨年までのテキサス大学、アルバータ大学における研修の様子をスライドで説明を受け、昨年の参加学生の感想をまとめた冊子などを閲覧した。コロンビア大学側でも東京歯科大学の学生の研修を補佐してくれるレジデントによって準備が進められた。出発前に東京歯科大学側の学生6名を集め話し合いの場を設けた。ここではチームワークの構築と、リーダーを選出し目標を定め、目標達成のためのいくつかの行動目標を作り上げた。さらには英語による自己紹介の練習など、渡米までに行うべき事項についても確認を行った。

研修先としてはコロンビア大学付属の歯科病院を設定していただいた。初日にニューヨーク市内の会議室で、約3時間程度のレクチャーを歯周・補綴科のレジデントに行っていたいただいた。ここで



診療室で談笑するコロンビア大学の学生と東京歯科の学生達

は事前に依頼していた「コロンビア大学およびアメリカの他大学における歯科医学教育、卒後教育制度、専門医獲得のためのコースとその条件」などについての講義内容であった。特に海外からのアメリカで専門医という資格を獲得したい歯科医師の受け入れ態勢も整っており、東京歯科大学の学生達は特に興味を示していた。病院見学では、多くの歯科学生が臨床実習を行う様子を見学でき、また気軽に声をかけてくる友好的な態度にも感動していたようであった。特に歯学部学生が担当する患者を指導医の指導を受けながら、学生が直接診療していることに驚いていた。その診療内容もレベルが高く、前歯部にインプラント治療を行うための骨増生手術を4年生が行っていた。

見学の合間のランチタイムには、Ronnie Myers学部長と学部長室でランチ会議を開催していただいた。東京歯科の学生からの質問に対しRonnie Myers学部長は、親切にわかりやすく多くのことを解説していただいた。さらには今回の研修を事前に快く引き受けていただき、様々な便宜を図っていただいたGeri副学長も学生達に会いに来てくれ、色々な話をしていただいた。

コロンビア大学は、全米で5番目に古いアイビー・リーグの一角である。世界的な研究大学で、ノーベル賞受賞者を98名輩出したことでも知られている。オバマ大統領が卒業生であることも有名な話である。メインキャンパスは荘厳で、東京歯科大学の参加学生達は東の間のアイビー・リーグの風を満喫しているようであった。ニューヨークの歯学部では、ニューヨーク大学歯学部が一学年300名を超える最も学生数の多い大学であり、臨床研究、専門医制度などでもレベルが高いことで知られる。コロンビア大学歯学部も実績のある

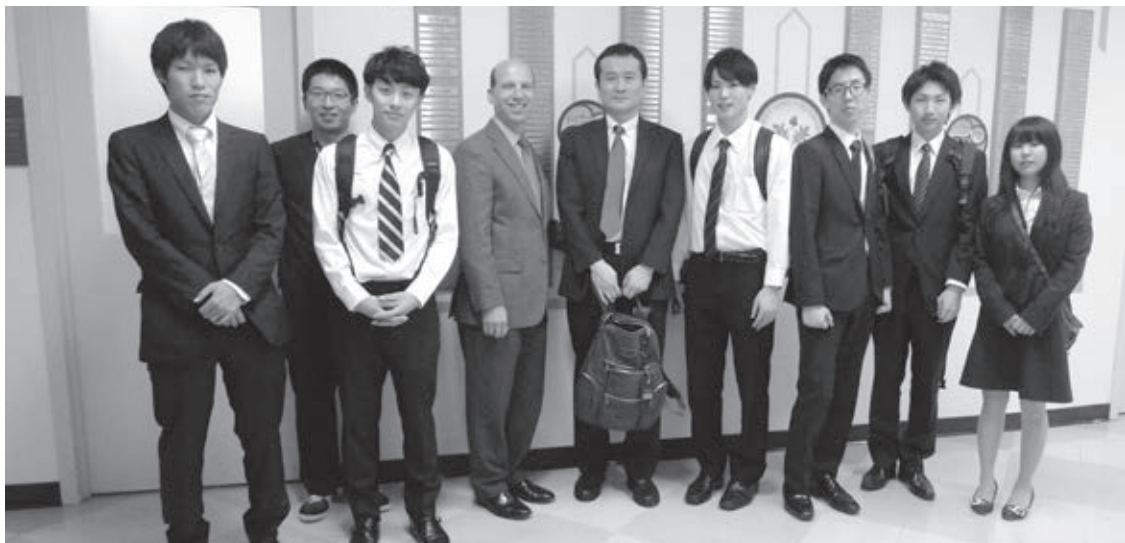


コロンビア大学の学生（4年生）の診療風景（前歯部のインプラント治療のための骨増生手術）

有名教授がニューヨーク大学から移籍した事情などもあり、専門医制度がさらに充実し、世界から優秀な学生が集まってくるようになってきたとの事であった。

連日レクチャー、見学などを通してアメリカに

おける歯科臨床の実際に接することが出来た。また、懇親会などを通じ、コロンビア大学のレジデント達と十分な交流の場を持つ事ができた。この場を借りて今回の研修に関係していただいたコロンビア大学の先生方に感謝の意を表したい。



今回の研修で様々な便宜を図っていただいたGeri副学長と記念撮影



Ronnie Myers学部長とのランチ会議の様子



コロンビア大学のメインキャンパスでアイビー・リーグの風を満喫する学生達

## 大学院ニュース

### ■第371回大学院セミナー開催

平成25年7月11日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第371回大学院セミナーが開催された。今回は、国立保健医療科学院地域医療システム研究分野統括研究官の三浦宏子先生をお迎えし、「高齢期の地域住民の口腔機能の現状と今後の課題」と題した講演を伺った。

高齢期における口腔機能の維持・向上は、健全な経口摂食を営む上でも、良好な言語コミュニケーションを保つ上でも極めて重要である。口腔機能の低下は、要介護高齢者だけの問題ではなく、自立した生活を営む高齢期の地域住民においても大きな健康課題である。高齢期の地域住民の口腔機能の現状を把握することは、高齢者への歯科医療ニーズを把握するだけでなく、地域での健康づくり対策や介護予防施策を推進する上で大きな意義を有する。

口腔は、ヒトが生活していくために必須の摂食機能と、人のみが持ちうる高度な構音機能の両者に深く関与するため、その機能の良否はQOLにも大きな影響を与える。2012年7月に告示された「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目的において、「生涯を通じた歯科疾患の予防、口腔機能の獲得・保持等により、国民が心身ともに健やかで心豊かな生活ができる社会を実現する」ことが明記されており、基本的な方針のひとつとして「生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上」が位置づけられている。超高齢社会のより一層の進展により、今後ますます地域住民における口腔機能の実態把握が求められるものと考えられる。



講演される三浦先生：平成25年7月11日(木)、千葉校舎第5教室

口腔機能の状態は、自立高齢者においてもQOLと有意に関連する。歯科保健活動と歯科医療のいずれにおいても、高齢期の口腔機能を定量的に評価することは、ニーズを的確に把握し、健康施策に歯科を反映させるために重要である。そして、エビデンスに基づく評価法および評価に基づく口腔機能管理や口腔ケアは、歯科専門職が本来、力を発揮できる分野である。

### ■第372回大学院セミナー開催

平成25年9月3日(火)午後4時30分より、市川総合病院講堂において、第372回大学院セミナーが開催された。本セミナーは、市川総合病院皮膚科の高橋慎一教授、耳鼻科の中島庸也教授、神経内科の野川茂教授の3名の講師により行われた。

最初に西田次郎市川総合病院長の挨拶があり、セミナーを開会した。

まず、耳鼻科の中島教授より、「騒音計によるいびきの評価とその臨床応用」と題した講演が行われた。現在、市川総合病院ではいびきの客観的評価として騒音計による音圧測定を施行している。これまでにいびきの音圧による客観的評価およびベッドパートナーによるいびき評価(VASスケール)との整合性を検討した。その結果、いびき最大値とVAS、最大値とAHIおよびAIが相関していることが判明し、この騒音計によるいびきの評価を用いて実臨床の効果判定に応用してみた。

①中等症の睡眠時無呼吸症候群(SAS)に対して口腔内装置(OA)を装着した患者13例(平成24年1月～8月)の治療前後の変化を終夜ポリグラフ(PSG)+騒音計で検査してその効果を検討し、睡眠中の呼吸状態と睡眠構築の改善、いびき音圧(最大値)の低下が有意に認められた。

②いびき・睡眠時無呼吸に対して行われた鼻内手術+咽頭形成術(UPPP)の患者7症例(平成23年5月～24年12月)に上記と同様の検査を施行し効果を検討した。性別男：女=4：3、年齢25歳～46歳、BMI18.85～26.68。結果：術前AHI 6～57.8回/h、術後AHI 1.6～46回/h、術前いびき最大値56.2～75.9dB、術後いびき最大値40～73dBで、それぞれ有意な低下であり、さらに

各症例のいびき構成音圧を調べ50dB以上の割合が有意に低下したことを認めた。手術の評価として、いびきの客観的評価は有効であった。

次に、皮膚科の高橋教授より、「掌蹠膿疱症の最新情報-歯科・口腔外科との共同研究の成果と課題を中心に-」と題した講演が行われた。市川総合病院に赴任した約20年前、歯科医師の方から歯科金属アレルギーの検査依頼を受ける機会が多く、その割に金属除去が有効な症例は少なかった。むしろ、歯周病の治療の方が有効ではないか?との疑問もあり、掌蹠膿疱症と歯性病巣、歯科金属アレルギー、喫煙の関連について歯科・口腔外科と共同研究を始めた。扁桃および歯性病巣治療の有効率は約70～80%で、試みるべき治療の1つである。一方、アレルギーを有する歯科金属除去の効果は一部の症例に限られることより、本症の治療では金属アレルギーより病巣感染治療を優先すべきと考えられる。また、喫煙については、当院の治療を受けて治癒した症例のほとんどが禁煙者であること、受動喫煙の中止のみで略治する症例もあること、禁煙者は喫煙者より有意に高い治療効果が得られることより、本症の治療において必須であると考えられた。

続いて、神経内科の野川教授より、「パーキンソン病の運動および非運動症状について」と題した講演が行われた。パーキンソン病(PD)は、中脳黒質のドパミン細胞の変性に伴い、安静時振戦、筋強剛、無動、姿勢反射障害の4徴をきたす運動障害疾患である。その有病率は100-150人/10万人と神経難病の中では比較的多く、どの診療科においても遭遇する機会がある疾患である。進行期には摂食・嚥下障害のため入院を余儀なくされ、口腔外科や栄養サポートチーム(NST)の介入を受けることも多い。

近年、本疾患では運動症状以外に種々の非運動症状を呈し、これらが患者QOLに大きく関わることが明らかにされた。PD症状は多様でありすべて把握することは困難であったが、われわれは包括的なPD症状の質問票であるMASAC-PD31を開発した。MASAC-PD31は、運動、ADL、睡眠、自律神経、認知能・ムード・その他の5つのdomainからなり、PDの運動および非運動症状を効率よく的確に評価でき、妥当性および信頼性の検討も行われている。

PD治療はレボドパによるドパミン補充療法が中心であるが、ドパミンによるpulsatileな神経刺激が運動合併症(wearing-offあるいはジスキネジア)を惹起する可能性があるため、近年ドパミン・アゴニストなどを用いた持続的ドパミン刺激(CDS: continuous dopaminergic stimulation)が重視されている。将来的には、神経保護療法やiPSを含む神経幹細胞による再生療法が期待されている。



セミナー開会に先立ち挨拶する西田市川総合病院長：平成25年9月3日(火)、市川総合病院講堂

### ■第373回大学院セミナー開催

平成25年9月18日(水)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、明海大学歯学部形態機能生化学講座歯科矯正学分野教授 須田直人先生を講師にお迎えし、歯科矯正学講座末石研二教授を座長として、第373回大学院セミナーが開催された。今回は、「歯科矯正学から考える遺伝性疾患のQOL」と題した講演を伺った。教室は矯正学関係の先生以外にも多くの大学院生と口腔外科、小児歯科からの参加者を迎えた。冒頭、進行性筋ジストロフィーの16歳男子の治験例を通し、咬合を直す事の意味を問いかけた。患者は、身体中がゆっくりと確実に悪くなる中で、歯並びと噛み合わせだけが良くなっていく事で、生きる上での励みになったという。

次いで、Marfan syndromeに移った。同疾患は弾性線維の機能異常に起因する常染色体優性遺伝性疾患で、解離性大動脈破裂発症が最も生命予後を左右する。Marfanの患者会は「正しい情報は命を救う」をモットーに活動しており、歯科医師の参加と患者の抱える問題を共有することの重要性が指摘された。同疾患は歯周病への易罹患性があり、血管への手術に際し、歯性病巣感染を避け

るために、抜歯が求められる事が多い。歯を失う事によるQOLの低下を避けるためにも同疾患における病態の解明が必要となっている。演者はMarfanモデルマウスへの歯周病原細菌の感染実験で、TGF- $\beta$ とIL17, TNF- $\alpha$ の上昇を認め、血管拡張治療薬であるARBの投与はTGF- $\beta$ とIL17, TNF- $\alpha$ の上昇を阻害する事を見いだしている。大動脈解離の予防薬投与は本疾患への歯周病進行も抑制する可能性が示唆されたが、患者は人での効果判定を強く望んでいるとの事である、「私たちに残された時間はわずかである」という切なる希望。

未診断の同疾患の発見も含めた歯科医の正しい知識が患者のQOL低下の防止につながる事と、CQに基づいたトランスリレーションナルリサーチ

の実践に受講者は深く感銘を受け、時間を延長して多くの質疑が行われた、有意義なセミナーであった。



講演される須田先生：平成25年9月18日（水）、千葉校舎第2教室

## トピックス

### ■折戸 聡レジデント 第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会優秀ポスター賞を受賞

平成25年1月24日（木）・25日（金）に秋葉原コンベンションホールにて開催された第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において口腔外科学講座の折戸 聡レジデントが「口腔扁平上皮癌遺伝子のPathway解析」と題した示説発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。

当講座では口腔扁平上皮癌のDNA構造解析、RNA発現解析、タンパク質発現解析、代謝産物解析を行い、診断、治療に有用なバイオマーカーの開発を行ってきた。今回、これまでに当講座でリストアップしてきたバイオマーカー候補についてタンパク質核酸データベースとPathway解析softwareを用いて、口腔癌細胞中の発現異常遺伝子群によるタンパク質発現異常の局在、細胞内機能、シグナル伝達経路、発現調節機構、既知の疾患との関連について解析した。近年、急速に開発が進むタンパク質核酸データベースの整備、データの蓄積により遺伝子発現解析からリストアップされた疾病関連遺伝子についての機能および遺伝子-遺伝子間相互作用が容易に予想可能となっている。口腔扁平上皮癌細胞内の生命現象を分子レベルでシミュレーションし概説した。多くの参加者の注目を集め、活発な質疑応答が行われた。今

後は、口腔扁平上皮癌の新規診断方法の開発をはじめ、予後の判定法の確立、治療法選択基準の設定、分子標的治療のターゲット等臨床への応用を目指す。



柴原孝彦教授（右）と受賞した折戸レジデント（左）：平成25年1月25日（金）、秋葉原コンベンションホール

### ■林 幸央大学院生 第26回日本顎関節学会学術大会ポスター発表優秀賞を受賞

平成25年7月20日（土）・21日（日）に学術総合センター・一橋記念講堂で行われた第26回日本顎関節学会総会・学術大会において、口腔外科学講座の林 幸央大学院生が「歯性病巣感染を伴った線維筋痛症の1例」と題した示説発表を行い、ポスター発表優秀賞を受賞した。

線維筋痛症ははまだ原因が不明であり治療方法



が確立されておらず、医療従事者においても認知度が低い難治性の疾患である。今回、林大学院生が日常臨床の場で、菌性病巣感染により線維筋痛症症状が増悪し、歯科治療により改善した症例を経験し、その概要を報告した。線維筋痛症は全身のびまん性疼痛と疲労感を主訴とし、うつ・不安感などの精神症状を示すことも多く、臨床症状以外には通常の検査ではほとんど異常を示さない。本邦独自の線維筋痛症の診断基準はなく、通常米国リウマチ学会（ACR）の診断基準を用いるのが一般的である。これは体幹部に存在する18ヶ所の特異的な圧痛点を指圧し、11ヶ所以上で反応すれば線維筋痛症として診断されるものである。本邦においては厚生労働省の研究班による全国疫学調査では、2003年1年間に線維筋痛症の診断で病院に通院した患者数は2600名であった。治療は症状に応じた対症療法となることが多い。歯科治療を行うにあたっては疼痛発作時の対応や疼痛発作予防のために、主治医への事前の対診を行い常用薬や疼痛コントロール状態を把握し、処置に対し十分に検討しておくことが重要と訴えた。多くの参加者の注目を集め活発な質疑応答が行われた。今後は、本疾患と顎関節症との鑑別方法の確立を目指す。



受賞した林大学院生：平成25年7月21日（日）、学術総合センター・一橋記念講堂、受賞ポスター前

### ■音成実佳講師 第26回日本顎関節学会学術大会ポスター発表最優秀賞（石橋賞）を受賞

平成25年7月20日（土）・21日（日）に東京で開催された第26回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会において、歯科放射線学講座の音成実佳講師がポスター発表をした「各関節円板状態におけるJoint effusionのFLAIR像での信号強度と疼痛との関連」と題する演題が、ポスター

発表最優秀賞の石橋賞を受賞した。

この数年、当講座ではFluid attenuated inversion recovery (FLAIR) 法を用いた顎関節のjoint effusion (JE) についての検討を行ってきた。第60回国際歯科研究学会日本部会総会では、顎関節症患者の関節円板状態により分類した4群間でFLAIR像上のJEの規格化信号強度（SIR）に有意差が見られ、顎関節症のstageによるJEの内容成分変化が示唆された。そこで今回は、円板正常位置を含めた各関節円板状態におけるFLAIR像上のJEのSIRが疼痛群と非疼痛群の間で有意差があるか否かが検討された。その結果、非復位性関節円板転位群において疼痛群と非疼痛群の間でJEのSIRに差が見られ、疼痛群で高い値を示した。結果より疼痛を伴う非復位性関節円板転位関節で認められるJEは高蛋白成分であることが示唆された。以前には、非復位性関節円板転位関節におけるMR画像上のJE量と顎関節部の疼痛の関連を報告している。以上より、疼痛を伴う非復位性関節円板転位関節のJEは量が多く蛋白濃度が高いことが示唆された。JEは関節液の異常集積と言われているが、本当に病的変化を示しているのは、非復位性関節円板転位関節のJEかもしれないと推察された。

音成講師は顎関節症を伴う顎関節のMR画像において、いまだ完全には明らかではないMR画像所見と病態との関連性の解明の一助となる結果が得られたと述べた。



受賞した音成講師：平成25年7月20日（土）、学術総合センター・一橋記念講堂、受賞ポスター前

## ■デンツプライインターナショナル社 Vice President, Chief Clinical OfficerのDr. Teresa A.Dolanが水道橋校舎を表敬訪問

平成25年8月20日(火)にデンツプライインターナショナル社 Vice President, Chief Clinical OfficerのDr. Teresa A.Dolanがデンツプライ三金株式会社の堺 俊哉取締役開発本部長と水道橋校舎を表敬訪問し、金子 譲理事長と懇談した。

Dr. Dolanは本学と姉妹校関係にあるフロリダ大学歯学部歯学部長を2003年5月から本年までの10年間務めた後に、デンツプライインターナショナル社のVice Presidentに就任された。この度日本歯科医師会とデンツプライ社が行っているスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムの第19回日本代表選抜大会にデンツプライインターナショナル社を代表して出席するために初来日された。来日に際し、日本を代表する歯科大学の訪問を希望され、本学への訪問となった。

金子理事長とDr. Dolanは歯学教育や研究、学生交流など幅広い話題で会話が弾み、短い時間であったが和やかに懇談が行われた。懇談の後、国際交流部の齋藤 淳教授の案内で金子理事長と共に水道橋病院と、竣工したばかりの新館を見学された。



金子理事長(左)とDr. T. A. Dolan(右) :平成25年8月20日、水道橋校舎本館理事長室

## ■ボストン大学歯学部長Dr. Hutterが水道橋校舎を表敬訪問

平成25年8月26日(月)にボストン大学歯学部長のDr. Hutterと国際交流のアジア地区を担当されているDr. Chouが来日され、金子 譲理事長、井出吉信学長を訪問し、齋藤 淳教授、佐藤 亨教授を交えて対談をした。Dr. Hutterよりボスト

ン大学の歯学部の歴史や現在行っているASP(Advanced Standing Program)というプログラムの紹介があった。ボストン大学歯学部は学部長をリーダーとして、よりBenefitのあるプログラムを構築していると語られた。

両校の発展的な交流を期待したいという内容で和やかに終了した。



対談後の記念撮影。前列左よりDr.Chou、Dr.Hutter、金子理事長、井出学長、後列(左)佐藤教授、(右)齋藤教授 :平成25年8月26日(月)、水道橋校舎本館5階法人役員室

## ■井上 孝教授 FDI (Fédération dentaire internationale・世界歯科連盟)の学術委員 (Scientific Committee Member) に就任

第101回FDI年次世界歯科大学大会が平成25年8月28日(水)から31日(土)まで、トルコのイスタンブールにて開催された。井上 孝教授は平成17年から23年までの6年間FDI Education Committee Memberを務めてきた。任期終了に伴い、今回、Scientific Committee Memberに立候補し、選挙の結果、見事学術委員に当選を果たした。任期は平成28年までの3年間で世界の歯科医師会の学術担当の任務を務めることとなる。尚本学が



第101回FDI年次世界歯科大学大会で挨拶する井上教授 :平成25年8月31日(土)、トルコ・イスタンブール

らは、高添一郎名誉教授、下野正基名誉教授が歴代の委員および理事を務められており、これに続くものとなった。

### ■太田 緑大学院生 国際歯科補綴学会最優秀ポスター賞を受賞

平成25年9月18日(水)より21日(土)までイタリア・トリノにて第15回International College of Prosthodonticsが開催された。この大会で有床義歯補綴学講座の太田 緑大学院生が、225演題の中から最優秀ポスター賞を受賞した。

受賞演題は「Effect of Chewing Side on Autonomic Nervous Response」であった。これは、習慣性咀嚼側での咀嚼時と非習慣性咀嚼側での咀嚼時との自律神経活動の違いについて研究したものである。これまで、咀嚼時の自律神経活動については、血漿カテコールアミンや発汗試験、ブドウ糖負荷試験などを用いて検討されてきているが、本研究では心電図のパワースペクトル分析を用いて検討を行った。本研究は自律神経活動と咀嚼側



レセプションにて大会長から表彰を受ける太田大学院生(写真中央)と前田芳信大会長(左)、Martin Gross大会長(右)：平成25年9月20日(金)、トリノ・Stupinigi宮殿



受賞後の太田大学院生(右)と指導医の櫻井 薫教授：平成25年9月20日(金)、トリノ・Stupinigi宮殿

に注目した研究であることと、咀嚼時の自律神経活動を新たな評価法を用いて検討したことが評価され、今回の受賞に至った。

### ■直井有紀さん(3年) 文部科学大臣からスポーツ功労賞を受賞

直井有紀さん(3年)は、日本代表選手の一員として、第5回IBAF女子野球ワールドカップ(平成24年8月10日(金)から19日(日)、カナダ・エドモントン)において、10打数4安打2打点の活躍で3連覇に貢献したことに對し、メンバーの一員として「スポーツ功労賞」受賞の榮譽に輝いた。

文部科学省スポーツ功労顕彰授賞式は、平成25年8月27日(火)、全日空インターコンチネンタルホテル(東京都内)にて行なわれ、下村博文文部科学大臣より、「スポーツ功労賞」を手渡された。



受賞したマドンナジャパンのメンバー：平成25年8月27日(火)、全日空インターコンチネンタルホテル

## 学生会ニュース

### ■第45回全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体）

#### 結団式開催

第45回全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体）結団式は、7月8日（月）午後6時30分より、千葉校舎体育館2階アリーナにおいて、出場クラブが一堂に参集して行われた。

井出吉信学長から「大学の移転に伴い練習期間が少なくなったが、練習の成果を存分に発揮して下さい。また、正々堂々と戦い、他大学の学生と友情を深めてください。」と挨拶をいただいた。続いて佐藤 亨学生部長から「毎年、総合成績は僅差となっているので、各クラブ全力を尽くして頑張ってください。」と挨拶をいただいた。

これを受けて陸上競技部主将谷口修一朗運動部長から（4年）から挨拶があり、出場選手を代表して、硬式野球部主将手束俊介君（4年）から力強い選手宣誓が行われた。その後、各クラブ主将から熱い意気込みが発表され、最後に参加者全員で校歌を斉唱して閉会した。

#### ○運動部長挨拶

今年もいよいよ歯学体が間近に迫ってきました。各クラブの皆さんは、忙しい勉学の合間を縫って日々練習に励んできました。

大会では日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、悔いのないよう頑張ってください。また東京歯科大学の学生としての自覚と誇りをもって、怪我に気をつけて、ベストを尽くしましょう。皆さんのご健闘を祈ります。

陸上競技部主将 谷口修一朗（4年）



井出学長から激励の挨拶：平成25年7月8日（月）、千葉校舎体育館2階アリーナ

#### ○選手宣誓

私たちは部活動ができるということに感謝し、最後まで笑顔で戦い抜きます。

そして、ここでしか得ることができない貴重な経験を人間性豊かな歯科医療人への成長の糧とすることを誓います。

硬式野球部主将 手束俊介（4年）



硬式野球部主将 手束君（4年）が力強く選手宣誓：平成25年7月8日（月）、千葉校舎体育館2階アリーナ

### ■東京歯科大学管弦楽団 第36回定期演奏会開催

平成25年7月28日（日）、本校千葉校舎講堂で東京歯科大学管弦楽団「第36回定期演奏会」を開催いたしました。今回は、同日に先だって行われた第8回東京歯科大学公開講演会と連携して行った広報効果もあってか、昨年以上のご来場者を得て講堂内が満席、立ち見の状況のなか、演奏を行うことができました。

指揮者・直井大輔さんのタクトの元、前半はソリスト・木下通子さんとの共演でドヴォルザークの『チェロ協奏曲』を、後半はビゼーの『アルルの女 第一組曲』、そして最後にワーグナーの『ニュルンベルクのマイスタージンガー・前奏曲』を演奏いたしました。ワーグナー演奏前には、団長・田中健太（4年）が「千葉校舎での演奏会の歴史」と「水道橋移転のご報告」、そして「ご支援いただいた地域住民の方々へのお礼」をスピーチいたしました。お客様のなかには涙を流しながらお聞きいただく姿も見られました。終演後も温かい拍手が鳴りやまないなか、演奏会は大盛況のうちに終了しました。

会場を出る際に、多くのお客様から「来年以降も千葉校舎での演奏会をしてほしい！」とのお声

かけも多くいただき、長き間に千葉校舎で管弦楽部が築きあげてきた歴史と地域との連携、関係した多くの方々の“思い”の繋がりを強く感じさせられた演奏会となりました。

(佐藤友理 4年)



大勢の観客を魅了した演奏：平成25年7月28日（日）、千葉校舎講堂

### ■延世大学校歯科大学との学生交流

延世大学校歯科大学との学生交流プログラムは今年26年目を迎え、8月19日（月）から23日（金）までの4泊5日の日程で、佐藤 亨学生部長、小倉 等学生課長引率のもと、第4学年の石 彩記子学生会歯科学生交流局長を代表として、亀谷 愛（4年生）、根東 愛（4年生）、酒井美貴（3年生）、小林奈菜美（2年生）、島村 唯（2年生）、浅野一磨（1年生）、天野沙紀（1年生）、吉野 輝（1年生）の学生9名が訪韓した。

訪韓初日の歓迎式ではDean Professor Keun-Woo Leeをはじめ教学関係教職員各位から熱烈な歓迎を受けたのち、大学附属SEVERANCE

病院、歯科大学病院、各種実習室、図書館など教育主要施設の見学を行った。

2日目は医療班(2GP)と文化班(2GP)の4つのグループで学生会議が実施され、活発なディスカッションと代表者による発表が行われた。学生会議終了後も移動するバスや歓談の中でテーマに関する話題で議論が交わされていた。

学生会議終了後、ソウル郊外にあるロッテワールドに立ち寄り、2日目の宿泊地となるYangpyeong Valleyに向かった。

Yangpyeong Valleyでの夕食はバーベキューで、学生同士が更に打解け、その後のレクリエーションではグループ対抗カラオケ合戦やゲームなどが行われ、和気藹々に親睦を深めた。

3日目はCheongpyeongという綺麗な景色が広がるダムでウォータースポーツを時間の許す限り楽しんだのちにソウル市内に戻り、夕食会で懇親した。

4日目は4グループに分かれ、それぞれが自由行動で市内観光や買い物を楽しんだ。夕刻はFarewell Dinnerが行われ、韓国最後の夜を楽しんだ。

5日目は歓送式が催され、Dean Professor Keun-Woo Lee、佐藤 学生部長、日韓学生代表から挨拶があり、今後も姉妹校として、また良きライバルとして良好な関係を築くことを誓い合って2013学生交流プログラムは幕を閉じた。



期待と不安の中、両校で記念撮影：平成25年8月19日（月）、韓国・延世大学校歯科大学

## ○延世大学交流会を終えて

## 歯科学学生交流会局長 石 彩記子(4年)

25年という長い歴史をもつ延世大学交流会の局長を務めさせていただき、ありがとうございました。

日韓政治上の問題などから、今年は中止になってしまうのではないかと不安でしたが、開催できたことを大変嬉しく思います。

また、先生方や学生課の方々、国際交流部の方には、夏休みにも関わらず英語でのプレゼンテーションの仕方を指導していただき、海外で困らないように教えて下さり、韓国にいる間も色々な面でサポートしていただき感謝しています。

当日は、延世大学の校内や病院見学など、貴重な体験をたくさんさせてもらいました。



ディスカッション前の打ち合わせ：平成25年8月20日(火)、韓国・延世大学校歯科大学



風光明媚な観光地でウォータースポーツを満喫：平成25年8月21日(水)、韓国・Cheongpyeong



ソウルの人気スポットで記念撮影：平成25年8月22日(木)、韓国・ソウル市内

また、たくさんコミュニケーションをとることで、私たちが普段当たり前だと思っていることも海外の人には不思議と思われていることもあり、それを説明することの難しさに気がつきました。

文化や言葉の違う二つの国のグループをまとめるのは大変なこともありました。明るくて優しい素晴らしいメンバー達のお陰で、楽しくて充実していました。

おそらく、私にとって学生生活の思い出としてだけではなく、将来社会に出たときの糧になる、大きな財産を得ることができたと思います。

この会を無事に終えることができたのは、携わった全員が一丸となったお陰だと感じています。

今後、もっと多くの人にこの交流会に興味を持ってもらい、是非参加してもらいたいと考えます。



日本と韓国の医療・文化の違いをディスカッション：平成25年8月20日(火)、韓国・延世大学校歯科大学



風光明媚な観光地でウォータースポーツを満喫：平成25年8月21日(水)、韓国・Cheongpyeong



すっかり打ち解けた仲間と楽しい食事：平成25年8月22日(木)、韓国・ソウル市内

## 国際交流部レポート

### ■留学生紹介

平成25年8月26日(月)、ネパールからの留学生であるDr. Pratikchhya Sheresthaが成田国際空港に到着した。空港では、国際交流部長の阿部伸一教授、微生物学講座の国分栄仁先生が出迎え、今後の簡単な打ち合わせを行った。Sherestha先生は市川宿舎に滞在し、12月まで臨床検査病理学講座で、訪問研究員として東京歯科大学の臨床システムの見学とiPS細胞に関する研究を行う予定である。



日本到着時に阿部国際交流部長(右)の歓迎を受けるSherestha先生(左)：平成25年8月26日(月)、成田国際空港

## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

井上 孝, 武田孝之著 創傷の治癒：歯髄・歯根膜・歯槽骨・歯肉そしてインプラントを病態論から解明する 医歯薬出版, 2013

柴原孝彦, 高野伸夫, 片倉 朗 [ほか] 著 かかりつけ歯科医からはじめる口腔がん検診Step1・2・3 医歯薬出版, 2013

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご報告くださいますようお願いいたします。

### ■高橋一祐名誉教授より図書が寄贈されました

平成25年8月、高橋一祐名誉教授より「古文書時代鑑 / 東京大学史料編纂所 [編]: 覆刻・新装版(古文書チベット医学図書)」他、貴重な資料を多数いただきました。大切に保管し、活用させていただきます。

### ■水道橋校舎本館図書館・新館図書館オープン

平成25年9月2日(月)水道橋校舎開校に合わせて、本館図書館・新館図書館がオープンした。本館図書館は2013年分の学術雑誌600タイトルを配架し、閲覧席33席、個室6室、12名のグループ学習室1室を備え、ポスター印刷用大判プリン



水道橋校舎本館図書館



水道橋校舎新館図書館ゲート・カウンター

ターが新設された。新館図書館は医学・歯学専門書12,000冊を配架、閲覧席34席に加え、40名収



水道橋校舎新館図書館書架

容できる自習室を備えている。



水道橋校舎新館図書館自習室

## <大学史料室から>

### ■保歯新論ほかの寄贈を受ける

平成25年8月、茨城県水戸市在住の小鹿典雄先生(昭和49年卒)から、ご尊父栄一先生(昭和15年卒)が所蔵されていた保歯新論、卒業アルバム、教科書類および当時の解剖実習写真など図書24冊、写真21枚の資料をご寄贈いただいた。大変貴重な資料であり、大切に保存し後世に伝えたい。



寄贈された「保歯新論」

### ■水道橋校舎新館へ展示史料の一部を移設

水道橋校舎新館の竣工に伴い、7月16日(火)から18日(木)の3日間、大学史料室の展示史料の移設作業が実施された。新館1階エントランスホール・3階血脇記念ホール廊下・3階ラウンジ史料室の壁面展示ケースに、北原白秋直筆の校歌ほか40点の貴重史料が展示された。



水道橋校舎新館1階エントランスホール



水道橋校舎新館3階血脇記念ホール廊下



## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■歯科衛生士専門学校学校説明会開催

平成26年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成25年6月15日(土)の午前、7月25日(木)の午前と午後、8月27日(火)の午前に開催された。

この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で実施しているものである。6月の第1回目には33名の志願予定者と19名の保護者の参加、7月の第2回目には午前の部は33名の志願予定者と20名の保護者、午後の部は26名の志願予定者と12名の保護者の参加があり、8月の第3回目には26名の志願予定者と9名の保護者の参加があった。総参加者数は118名の志願予定者と60名の保護者(総計：178名)であった。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについてスライドを交えて紹介した後、2・3年生の有志学生たちも参加して最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストラーションを行った。ついで学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学した。本学が歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生が、大学病院あるいは総合病院、事業所等へ就職したことなどを伝え、参加者の入学の意欲を高めることができたと感じられた。

また学校説明会終了後に、入学試験やカリキュラム、学校生活、学費・奨学金、歯科衛生士の業務・授業内容などの話をする教職員のブースと在校生と直接話ができるブースを設置し、個別の相

談会を開催した。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学するとともに教職員や学生と接することができたことで学校の雰囲気がよくわかり、参加して良かったとの意見が多く聞かれた。

### ■歯科衛生士専門学校名誉講師称号記授与式

東京歯科大学歯科衛生士専門学校教員会の推薦により、柳澤孝彰先生に歯科衛生士専門学校の名誉講師の称号が授与された。柳澤先生は平成元年6月1日から平成7年5月31日まで6年間教務部長を務められ、本学の運営にご尽力された。また、平成2年4月から平成13年3月まで口腔病理学正講師を11年間、平成13年4月から平成21年3月まで組織学正講師を8年間務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

名誉講師称号記授与式は、33名の教員の出席のもと、平成25年9月10日(火)午後5時30分より水道橋校舎本館5階特別会議室で行われた。井上孝校長より、柳澤先生の歯科衛生士教育への長年の功績に対する賞賛が述べられ、続いて井出吉信学長より先生の長年のご苦勞を慰勞されるご挨拶をいただいた。その後、井上校長より名誉講師称号記が授与された。挨拶に立たれた柳澤先生から謝辞が述べられるとともに、教務部長時代に苦勞されたことなどを含め、充実した教育の時間を振り返ってお話をされた。



名誉講師称号記授与式後の記念写真：平成25年9月10日(火)、水道橋校舎本館5階特別会議室



挨拶をされる柳澤先生：平成25年9月10日(火)、水道橋校舎本館5階特別会議室

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 千葉校舎・千葉病院

- 埼玉県立大学(学生30名、教員1名)  
平成25年7月3日(水)解剖学実習見学、千葉病院見学
- 医療法人鳳生会 藤リハビリテーション学院(学生64名、教員2名)  
平成25年7月25日(木)、8月2日(金)、5日(月)、8日(木)、9日(金)解剖学実習見学  
平成25年8月12日(月)、13日(火)解剖学見学
- 学校法人呉竹学園東京医療専門学校(学生30名、教員1名)  
平成25年7月26日(金)、29日(月)、30日(火)、31日(水)解剖学教室見学
- 茨城歯科専門学校(学生53名、教員2名)  
平成25年8月1日(木)解剖学教室見学、千葉病院見学
- 学校法人 阿弥陀寺教育学園国際医療福祉専門学校(学生50名、教員3名)  
平成25年8月16日(金)から21日(水)解剖学実習見学

#### 市川総合病院

- 日出学園中学・高等学校(学生7名)  
平成25年7月22日(月)市川総合病院見学
- 山王病院(歯科衛生士1名)  
平成25年9月26日(木)市川総合病院見学

#### 水道橋校舎・水道橋病院

- 78期会(78期卒業生50名)  
平成25年9月7日(土)水道橋校舎新館見学

### ■海外出張

- 宮崎 薫助教(市病・産婦人科)  
ESHRE 2013(ヨーロッパ生殖医学会)において発表を行うため、7月7日(日)から11日(木)までイギリス・ロンドンへ出張。
- ピッセン弘子教授、大島キャサリン事務員(水病・眼科)  
第26回アジア太平洋白内障屈折矯正手術学会(26th Asia-Pacific Association of Cataract and Refractive Surgeons)へ出席のため、ピッセン教授は7月10日(水)から14日(日)まで、大島事務員は7月11日(木)から14日(日)までシンガポールへ出張。
- 遠藤隆行講師(生理学)、川口 綾大学院生、征矢 学大学院生(歯科麻酔学)、小林弘史大学院生(歯科矯正学)  
国際生理学会IUPS(International Union of Physiological Sciences)に参加、および発表のため、遠藤講師は7月22日(月)から29日(月)まで、川口大学院生、征矢大学院生、小林大学院生は7月20日(土)から28日(日)まで、イギリス・バーミンガムへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)  
台北医学大学におけるElective Study(第1~3学年)引率のため、7月21日(日)から25日(木)まで、台湾・台北へ出張。
- 石崎 憲講師(有床義歯補綴学)  
3M ESPE Japan Dental Key Opinion Leader Symposiumに出席のため、7月28日(日)から8月4日(日)まで、アメリカ・ミネソタへ出張。
- 武田友孝准教授(スポーツ歯学)  
Academy for Sports Dentistry 31st Annual Symposiumに出席、および発表のため、7月31日(水)から8月6日(火)まで、アメリカ・フィラデルフィアへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)  
ニューヨーク、コロンビア大学におけるElective Study(第4~6学年)引率のため、8月18日(日)から23日(金)までアメリカ・ニューヨークへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)、小倉 等課長(学生課)  
延世大学校歯科大学との学生交流引率のため、8月19日(月)から23日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 小田 豊教授、副島寛貴大学院生(歯科理工学)、大金 覚助教、恩田健志助教(口腔外科学)、渡邊浩章助教(歯科保存学) 原 舞大学院生、安田博光大学院生(クラウンブリッジ補綴学)  
2nd Meeting of the International Association for Dental Research-Asian Pacific Region(IADR-APR 2013)に出席、および発表のため、小田教授は8月20日(火)から23日(金)まで、渡邊助教、副島大学院生は8月20日(火)から24日(土)まで、大金助教、恩田助教は8月19日(月)から25日(日)まで、原大学院生、安田大学院生は8月20日(火)から25日(日)までタイ・バンコクへ出張。
- 田中一郎教授(市病・形成外科)  
第22回中日形成外科学会に出席、および発表のため、8月23日(金)から26日(月)まで中国・大連へ出張。
- 澤田 隆准教授(口腔超微構造学)  
Microscopy Conference MC 2013に出席および、発表のため、8月24日(土)から31日(土)まで、ドイツ・レーゲンスブルグへ出張。
- 河又 寛助教(市病・外科)  
International Surgical Week ISW 2013に出席、および発表のため、8月24日(土)から29日(木)までフィンランド・ヘルシンキへ出張。
- 井上 孝教授(臨床検査病理学)、阿部伸一教授(解剖学)  
第101回FDI年次世界歯科大会に井上 孝教授はFDI教育委員会日本代表委員として、出席のため、阿部教授は金子理事長代行でAmbassadors Leadership Development Programmeのミーティングに参加のため、8月26日(月)から30日(金)までトルコ・イスタンブールへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)  
アジア太平洋脊椎外科学会にシンポジストとして参加のため、8月27日(火)から9月1日(日)までマレーシア・クチンへ出張。
- 石上恵一教授(スポーツ歯学)  
The 80th Annual Meeting of Korean Society of

Food Science and Technologyに参加、および講演のため8月27日(火)から30日(金)まで韓国・天安へ出張。

- 吉成正雄教授(歯科理工学)、亀山敦史准教授、野呂明夫講師、春山亜貴子助教(総合診療科)  
46th CED-IADRに出席、および発表のため吉成教授は9月1日(日)から9日(月)まで、亀山准教授、野呂講師、春山助教は9月3日(火)から9日(月)までイタリア・フィレンツェへ出張。
- 穴澤卯圭准教授(市病・整形外科)

International Society of Limb Salvage 17th General Meeting (ISOLS) 出席のため、9月10日(火)から15日(日)までイタリア・ボローニャへ出張。

- 島崎 潤教授(市病・眼科)  
Tear Film & Ocular Surface Societyにおいて発表のため、9月15日(日)から26日(木)までイタリア・タオルミナへ出張。
- 櫻井 薫教授、山田将博講師、竜 正大助教、和田 健大学院生、荻野崇真大学院生、田嶋さやか大学院生、梅澤朋子大学院生、太田 緑大学院生、(有床義歯補綴学)

15th International College of Prosthodontics Meetingsにおいて発表のため9月16日(月)から23日(月)までイタリア・トリノへ出張。

- 村戸ドール客員講師、葛西 梢助教、遠藤安希子助教(市病・眼科)  
Tear Film Ocular Surface Society Conferenceにおいて発表のため、村戸客員講師は9月17日(火)から24日(火)まで、葛西助教、遠藤助教は9月17日(火)から23日(月)までイタリア・タオルミナへ出張。

- 武井 泉教授(市病・糖尿病・内分泌センター)  
第49回ヨーロッパ糖尿病学会(EASD)において発表のため9月21日(土)から29日(日)までスペイン・バルセロナへ出張。
- 坂本輝雄講師、西井 康助教(歯科矯正学)  
歯科矯正用アンカースクリュー研究打合せのため、9月26日(木)から28日(土)まで韓国・ソウルへ出張。
- 栗原絹枝大学院生(市病・オーラルメディスン・口腔外科)  
European Cancer Congress 2013において発表のため、9月27日(金)から10月1日(火)までオランダ・アムステルダムへ出張。
- 小橋優子講師(市病・放射線科)  
International skeletal societyへ参加のため、9月27日(金)から10月5日(土)までアメリカ・フィラデルフィアへ出張。
- 白石 建教授、青山龍馬助教(市病・整形外科)  
欧州脊椎外科学会において出席、および発表のため白石教授は9月28日(土)から10月7日(月)まで、青山助教は10月1日(火)から7日(月)までイギリス・リバプールへ出張。
- 上田貴之准教授(有床義歯補綴学)  
ヨーロッパ老年歯科学会における発表、並びにベルン大学補綴科との共同研究のため、9月29日(日)から10月7日(月)までオーストリア・グラーツ、スイス・ベルンへ出張。
- 小田 豊教授(歯科理工学)  
第49回ISO/TC106仁川会議に日本SC議長ならびにWG議長として出席のため、9月29日(日)から10月5日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

## 大学日誌

### 平成25年7月

- 1 (月) 防火・防災安全自主点検日  
臨床研修管理小部会(千病)
- 3 (水) リスクマネジメント部会(千病)  
ICT会議(千病)  
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 4 (木) 第4学年HBワクチン接種  
カルテ指導委員会(千病)  
臨床研修委員会(千病)  
キックオフミーティング・オープンホスピタル(千病)  
感染制御委員会(市病)  
ICT委員会(市病)  
治験審査委員会(市病)  
倫理委員会(市病)

- 6 (土) 市病合同臨床研修歯科医OSCE(水病)
- 7 (日) 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]
- 8 (月) 第45回全日本歯科学学生総合体育大会結団式  
学生部(課)事務連絡会  
臨床教育委員会  
千葉病院部(科)長会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
医局長会(千病)  
地域連携委員会(市病)  
医療安全管理委員会(市病)
- 9 (火) 講座主任教授会  
人事委員会

- |                |  |        |  |
|----------------|--|--------|--|
| 9 (火)          | 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会<br>臨床教授連絡会(千病)<br>薬事委員会(市病)   | 21 (日) | 1～3年生Elective Study [台湾・台北<br>医学大学他][～25日]   |
| 10 (水)         | 基礎教授連絡会<br>大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>救急委員会(市病)<br>ICU運営委員会(市病)<br>リスクマネージメント部会(水病)<br>医療機器安全管理委員会(水病)<br>薬事委員会(水病)<br>医薬品安全管理委員会(水病)  | 22 (月) | 1～4年生夏期休暇[～9/13]<br>医療安全研修会(千病)<br>NSTカンファレンス(市病)  |
| 11 (木)         | 千葉校舎課長会<br>第371回大学院セミナー<br>業務連絡会(千病)<br>手術室運営委員会(市病)   | 23 (火) | 情報システム管理委員会<br>衛生委員会(水病)<br>データ管理者会議(水病)<br>病院連絡協議会(水病)<br>診療録管理委員会(水病)  |
| 12 (金)         | ICLS講習会(市病)<br>広報誌編集委員会(市病)<br>感染予防対策チーム委員会(水病)  | 24 (水) | 糖尿病教室(市病)<br>糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)   |
| 16 (火)         | 環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日   | 25 (木) | 歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇<br>[～8/29]<br>歯科衛生士専門学校学校説明会<br>医療連携講演会(千病)<br>管理診療委員会(市病)<br>平成25年度水道橋病院症例報告(水病)                   |
| 17 (水)         | 歯科衛生士専門学校1年生夏期休暇<br>[～8/31]<br>輸血療法委員会(市病)<br>褥瘡対策委員会(市病)  | 26 (金) | 災害対策実施部会(市病)   |
| 18 (木)         | 2～4年生振替授業(月曜日分)<br>歯科衛生士専門学校2年生夏期休暇<br>[～8/31]<br>部長会(市病)<br>診療録指導委員会(水病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>医療連携プロジェクト委員会(水病)<br>科長会(水病)                     | 27 (土) | 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]   |
| 19 (金)         | 1～4年生前期授業終了<br>水道橋校舎新館竣工式  | 28 (日) | 第8回東京歯科大学公開講演会<br>効果的な保存修復学教育のためのワー<br>クショップ[於：水道橋校舎]  |
| 20 (土)         | 学年主任・副主任における三者個別面<br>談会[於：水道橋校舎]<br>父兄会定時総会[於：水道橋校舎]<br>保護者に対する修学指導方針説明会<br>[於：水道橋校舎]<br>各学年主任による説明会[於：水道橋<br>校舎]<br>水道橋校舎新館竣工祝賀会[東京ド<br>ームホテル地下1階天空]<br>機器等安全自主点検日<br>患者サロン(市病) | 29 (月) | 第125回歯科医学教育セミナー<br>教務部(課)事務連絡会<br>電子カルテシステム運用管理委員会<br>(市病)   |
|                |  | 30 (火) | データ管理者会議(千病)<br>カルテ整備委員会(千病)<br>診療記録管理委員会(千病)  |
|                |  | 31 (水) | DPC対策委員会(市病)<br>保険診療検討委員会(市病)<br>教職員研修会(水病)  |
| <b>平成25年8月</b> |  |        |  |
|                |  | 1 (木)  | 第45回全日本歯科学生総合体育大会開<br>会式[競技：8/1～8/12][事務主管：<br>日本大学歯学部]<br>防火・防災安全自主点検日<br>感染制御委員会(市病)<br>ICT委員会(市病)<br>午後のリサイクル(市病) |
|                |  | 2 (金)  | 倫理委員会・利益相反委員会  |
|                |  | 5 (月)  | 臨床研修管理小部会(千病)<br>医療安全ランチタイムセミナー<br>[～9日](市病)   |
|                |  | 7 (水)  | リスクマネージメント部会(千病)<br>ICT会議(千病)  |

12 (月)	第45回全日本歯科学学生総合体育大会閉会式 千葉病院部(科)長会(千病) 個人情報保護委員会(千病) 医療安全管理委員会(千病) 感染予防対策委員会(ICC)(千病) 医局長会(千病) 医療安全管理委員会(市病)	3 (火)	第372回大学院セミナー [於：市川総合病院] 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 臨時カルテ整備委員会(千病) 防災訓練(市病)
14 (水)	リスクマネージメント部会(水病)	4 (水)	4年生ネットワーク接続説明・設定作業 リスクマネージメント部会(千病) ICT会議(千病)
15 (木)	環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 業務連絡会(千病)	5 (木)	輸血療法委員会(千病) 臨床検査部運営委員会(千病) 口腔健康臨床科学講座会(水病) 教養科目協議会 教養科目担当者懇談会 カルテ指導委員会(千病) 口腔がんセンター会議(市病) 口腔がんセンター運営委員会(市病) 感染制御委員会(市病) ICT委員会(市病) 治療審査委員会(市病) 倫理委員会(市病)
17 (土)	患者サロン(市病)	6 (金)	臨床検査運営委員会(市病)
18 (日)	4～6年生Elective Study [米国・コロンビア大学他][～23日]	7 (土)	5年生第1回総合学力試験[於：水道橋校舎]
19 (月)	延世大学校歯科大学との学生交流プログラム[～23日] 医療安全研修会(千病)	8 (日)	臨床研修歯科医選考(千病)
20 (火)	機器等安全自主点検日	9 (月)	臨床教育委員会[於：千葉校舎] 千葉病院部(科)長会 個人情報保護委員会(千病) 医療安全管理委員会(千病) 感染予防対策委員会(ICC)(千病) 医局長会(千病) 医療連携委員会(千病)
23 (金)	災害対策実施部会(市病) 平成25年度第2回医療安全講演会(市病)	10 (火)	臨床教授連絡会[於：水道橋校舎] 講座主任教授会[於：水道橋校舎] 人事委員会[於：水道橋校舎] 総合講義検討委員会[於：水道橋校舎] 歯科衛生士専門学校教員会・名誉講師称号記授与式
24 (土)	入試ガイダンス[於：水道橋校舎]	11 (水)	基礎教授連絡会[於：水道橋校舎] 大学院運営委員会[於：水道橋校舎] 大学院研究科委員会[於：水道橋校舎] 褥瘡対策委員会(市病) 救急委員会(市病) 平成25年度第1回感染制御講演会②(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病)
26 (月)	RST会議(市病) NSTカンファレンス(市病)	12 (木)	業務連絡会(千病)
27 (火)	歯科衛生士専門学校学校説明会 栄養委員会(市病)		
28 (水)	糖尿病教室(市病) 平成25年度第1回感染制御講演会(市病)		
31 (土)	水道橋校舎新館竣工記念講演[血脇記念ホール] 水道橋校舎新館竣工記念式典[血脇記念ホール] 水道橋校舎新館竣工記念祝賀会[東京ドームホテル地下1階天空]		
<b>平成25年9月</b>			
2 (月)	1～6年生水道橋校舎新館開校に伴う説明会 防火・防災安全自主点検日 歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開 臨床研修管理小部会(千病) 医療安全管理委員会(市病)		
3 (火)	6年生第2回総合学力試験[～4日][於：千葉校舎] 3年生ネットワーク接続説明・設定作業		

- |        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 12 (木) | 高度・先進医療委員会(千病)<br>手術室運営委員会(市病)  | 24 (火) | カルテ整備委員会(千病)<br>診療記録管理委員会(千病)<br>医療監視(市病)  |
| 13 (金) | 1～4年生夏季休暇終了<br>ICLS講習会(市病)<br>感染予防対策チーム委員会(水病)  | 25 (水) | 図書委員会[於：水道橋校舎]<br>歯科衛生士専門学校3年生前期試験<br>[～26日]<br>糖尿病教室(市病)<br>DPC対策委員会(市病)<br>保険診療検討委員会(市病)<br>衛生委員会(水病)<br>データ管理者会議(水病)<br>病院連絡協議会(水病)<br>診療録管理委員会(水病) |
| 15 (日) | 歯科衛生士専門学校創立記念日  | 26 (木) | 管理診療委員会(市病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>医療連携プロジェクト委員会(水病)<br>科長会(水病)   |
| 17 (火) | 1・4年生前期定期試験[～27日]<br>2・3年生前期定期試験[～25日]<br>環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験<br>[～27日]<br>薬事委員会(市病) | 27 (金) | 学生部(課)事務連絡会<br>教育ワークショップ報告会[於：水道橋校舎]   |
| 18 (水) | 第373回大学院セミナー [於：千葉校舎]<br>輸血療法委員会(市病)  | 29 (日) | 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]   |
| 19 (木) | 歯科衛生士専門学校臨床実習指導者連絡会<br>部長会(市病)<br>末松誠教授記念講演会(市病)<br>診療録指導委員会(水病)  | 30 (月) | 教務部事務連絡会[於：水道橋校舎]<br>医療安全研修会(千病)<br>NSTカンファレンス(市病)<br>教職員研修会(水病)   |
| 20 (金) | 機器等安全自主点検日  |        |  |
| 21 (土) | 第31回カリキュラム研修ワークショップ<br>[～22日](水病)   |        |  |
| 24 (火) | 情報システム管理委員会<br>薬事委員会(千病)<br>データ管理者会議(千病)  |        |  |

### 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 王子田 啓 椎名 裕 中村弘明  
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹  
(平成25年9月現在)



#### 編集後記

平成25年8月31日、水道橋校舎の竣工記念講演、記念式典、竣工祝賀会が盛大に開催されました。緑あふれる広い千葉キャンパスの開校から32年を経た今、創立以来4度目となる移転を完了し、再び、本学建学の地である水道橋畔にメインキャンパスが戻ってきました。次なるステージへの新たなスタート。

水道橋校舎本館・水道橋病院をコアとした、水道橋校舎新館、さいかち坂校舎からなる三つのキャンパス。明治34年、神田小川町から移転したその時から連綿と続く、東京歯科大学建学のゆかりの地・水道橋への回帰です。この場所で、かつての水道橋で学んだ世代、千葉を卒業した世代、そして、新しく水道橋で育つ世代、3つの世代が集います。

夏の東京で、第45回歯学体が開かれました。20の部門、300人以上の学生たちが参加し、バレーボール部や硬式野球部の総合優勝、硬式庭球部や水泳部の総合準優勝をはじめ、数え切れないほどの個人の優勝や入賞がありました。総合第三位。

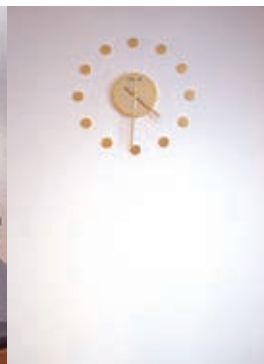
最後まで全員でバレーボールを楽しんで優勝した仲間。逆転に次ぐ逆転で延長戦までもつれ込み、最後にサヨナラ勝ちで優勝をつかんだ硬式野球部。全員が自己ベストを叩き出し、最高に熱い夏を過ごした名門、水泳部の仲間達。プレッシャーの中での硬式庭球部の誇れる4連覇。

栄冠をつかみ取った彼らの言葉に、思いがあふれます。  
…そして、熱い夏が終わり、秋の気配と共に、仲の良いメンバー達が引退し、新しい世代へとバトンが渡されていきます。

もう一つの夏。四半世紀の歴史を刻む、延世大学校歯科大学との学生交流では、今年、第1学年から第4学年までの9名の学生が韓国を訪れました。一方、Elective Study プログラムでは、第1学年から第3学年までの12名の学生が台北医学大学へ、また、第4学年から第6学年までの6名の学生たちが、ニューヨークのコーロンビア大学に向かいました。育った環境も言葉も違う学生たちが互いに関わり合っていく中こそ、新しい可能性が生まれていきます。

参加したひとり一人の中で、未来に向けてきっと何かが変わり始めています。

(広報・公開講座部長・橋本貞充)



稲毛から水道橋へ。血脇守之助先生の胸像が見守る新館で、学生たちの新しい時間が刻まれ始めました。春には、千葉を知らない昌英育ちの後輩たちがやってきます。



ハレの式典の日。新校舎のファサードのガラスには、水道橋白山通りの街並みがあざやかに映ります。水道橋界隈の街並みに新しく加わった、13階建ての、透き通ったガラス張りの校舎。